亡」ト記セリ是ニ由テ之レヲ觀レハ秀次郎ハ富田藤吉ノ長男ニシテ金杉丹藏ノ養子タルコトハ掩フ可ラサル事實ナリ然リ而シテ金杉丹藏ハ當時大宮宿ニ住居セシ者ニシテ乙第四號證ノ如ク長男金杉長三郎ニ家督ヲ讓リ甲第一號證ノ如ク東京芝區柴井町ニ一戸ヲ構ヘ分家ヲナシ秀次郎ヲ養子トナシタルコトモ亦明瞭セリ是ニ由テ是レヲ觀レハ再々抗告人金杉敬次郎竝金杉長三郎ト秀次郎トハ本分家ノ關係ヲ有スルコト明瞭ナリ夫斯ノ如ク秀次郎ハ金杉丹藏ノ養子タルニヨリ同人死亡後其妻タル丹藏ノ次女ミネ相續ヲナシタリ然ルニ東京地方裁判所ハ此甲第一號證竝ニ乙第二號證乙第四號證ヲ無視シ金杉家カ市村家ノ本家ナル事ニ至リテハ確證ナシ云々ト說明シ最モ必要ナル本家分家ノ爭點ニ對シ決定ヲ下ササルハ爭點ニ對シ決定ヲナササル不法ノ裁判ナリ依テ東京地方裁判所ノ決定ニ對シ再抗告ヲ爲シタルニ再抗告裁判所ハ東京地方裁判所ハ金杉長三郎ヲ市村ミネノ實兄ナリト認メ隨テ抗告人カ相續ニ選定セラレンコトヲ希望スル長三郎ノ五女トメカ安久理ノ親族タルコトモ亦原裁判所ノ認定セル所ナルカ故ニ長三郎ト秀次郎ト本家分家ノ關係ノ有無ハ本件ニ於テ殆ント必要ナキノミナラス原裁

判所ニ於テハ此點ニ付テモ敢テ判斷ヲ與ヘサルニ非サルコトハ原裁判所カ「金杉家カ市村家ノ本家ナルコトニ至テハ確證ナシ」ト說明シタリト抗告人自ラ主張スル所ニ徵シ明瞭ナルニ付云々ト裁判シタルモ東京地方裁判所ハ金杉長三郎ヲ市村ミネノ實兄ナルコトヲ認メ居ラス隨テ長三郎五女トメカ安久理ノ親族タルコトモ亦認メ居ラサルニ原裁判所カ認定セル所云々ト裁判シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

然レ共東京地方裁判所ノ決定ニハ「金杉長三郎カ市村ミネノ實兄ナルコトハ相手方ヨリ提出セル甲五號證ノ戸籍謄本ニ照シ明カナルモ云々」ノ文詞ト「牛野七五郎ノ三男清次郎及ヒ金杉長三郎ノ五女トメハ共ニ被相續人市村安久理ニ對シ同親等ノ親族ナリ」ノ文詞トアリテ明ニ金杉長三郎カ市村ミネノ實兄ナル事實及ヒ其五女トメカ安久理ノ親族ナル事實ヲ判示シタルヲ以テ原決定ハ之ヲ指摘シタルコト絲毫ノ疑ヲ容ルヘキニアラス故ニ本論旨ハ其理由ナシ

抗告趣旨ノ第二ハ牛野七五郎ト秀次郎トハ兄弟ノ關係ヲ有セス此ノコトハ乙第一號證甲第一號證ニ秀次郎ハ富田藤吉ノ長男ト記載シアルニモ拘ハラス再抗告

裁判所ハ乙第一號證卽チ市村秀次郎戶籍謄本ニハ富田藤吉長男市村秀次郎トアリ甲第四號證タル牛野七五郎ノ戶籍ノ謄本ニハ七太郎二男牛野七五郎トアルヲ以テ一見秀次郎ト七五郎ノ父同一ナラサルカ如クナレトモ或ハ其父カ同一ニシテ改名シタルモノナルヤヲ計ル可カラス又父ハ同一ナラストスルモ母カ同一ナルヤモ知ルヘカラス卽チ牛野家ニ嫁シテ七五郎ヲ生ミタル婦人カ更ラニ富田家ニ嫁シテ藤吉ヲ生ミタル場合ナルモ知ル可カラサレハナリ云々ト裁判シタルモ之レハ空々漠々タル推定判斷ニ過キサルナリ然ルニ再抗告裁判ハ公吏ノ作成シタル身分證書卽チ明確ナル證據ニ重キヲ置カス空漠タル推定ニ據リテ裁判シタルハ法律ヲ違法ニ適用シタル裁判ナリト云フニアリ然レトモ裁判所カ公正證書ニ揭記シタル事項ト牴牾セサル事實ヲ推定スルハ法律ノ禁セサル所ナレハ本論旨ハ要スルニ事實ノ推定ヲ批難スルニ歸シ適法ノ抗告理由トナラス抗告趣旨ノ第三ハ東京區裁判所ノ親族會決議ニ代ルヘキ決定ハ其手續ニ於テ違法アリ卽チ一件記錄ニ添付スル親族會記錄ト題スル明治三十二年二月二十七日付牛野七五郎林タマ金杉敬次郎增田辰之助ノ書面ニ依レハ金杉敬次郎增田辰之助ノ兩名ハ

金杉長四郎四女(トメ)ヲ家督相續人ニ選定シ牛野七五郎林タマノ兩名ハ牛野七五郎三男牛野清次郎ヲ選ヒ各會員ノ意見二派ニ分レ決議ニ至ラス云々トアリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ牛野七五郎ハ本件ニ付利害關係ヲ有スルヲ以テ評決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス左レハ該決議中牛野七五郎ヲ除ク時ハ多數ハ金杉長三郎四女(トメ)ニ歸セリ然ルニ東京區裁判所ハ此不法ヲ顧ミス親族會ノ決議ニ代ルヘキ裁判ヲ爲シタルハ不法ヲ免レス左レハ此東京區裁判所ノ決定ハ當然廢棄スヘキ事玆ニ出テス却ツテ七五郎三男清次郎ヲ相續人ニ選定スルモ民法第九百四十七條第二項ノ利害ニ關スルモノニアラス本條自己ノ利害ニ關スル云々トハ間接ニ利害ヲ有スルモノヲ包含スルモノニアラストノ理由ヲ以テ原決定ヲ認許シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

然レトモ民法第九百四十七條第二項ニハ「會員自己ノ利害ニ關スル議事云々」トアリ卽チ其利害カ自己ニ直接ナル場合ニモノニアラサレハ親族會員ハ評決權ヲ失フヘキ故ニ牛野七五郎ノ三男清次郎ヲ以テ亡市村安久理ノ家督相續人ニ選定スル議事ハ七五郎直接利害ノ關係アリト云フヲ

外國婚姻令集

人事判例集　三十二年分　は　一〇二

得サルハ元トヨリ論ヲ俟タス要スルニ本論旨モ亦タ其理由ナキモノトス

上來說明シタル理由ニ依リ主文ノ如ク決定ス

第八號目次

佛國民法人事編
第六卷　離婚
第二章　離婚ノ訴訟手續……四九
第一節　離婚ノ法式……四九

第二章　離婚ノ訴訟手續

第一節　離婚ノ法式

第二百三十四條　離婚ノ請求ヲ提出セントスル夫又ハ婦ハ自ラ請求書ヲ裁判所長又ハ裁判所長ノ職務ヲ行フ裁判官ニ提出スヘシ

夫又ハ婦カ自ラ提出スルコト能ハサル障礙ヲ正當ニ證明シタルトキハ裁判官ハ書記ヲ從ヘ原告ノ住所ニ至ルヘシ

第二百三十五條　裁判官ハ原告ノ申述ヲ聽キ適當ナリト信スル注意ヲ與ヘタル後其指定セル日時ニ訴訟當事者ハ其面前ニ出席スヘキ旨ヲ請求書ノ末ニ記載シテ之ヲ命シ又召喚狀ノ送達ヲ執達吏ニ命スヘシ

刑ノ言渡ニ因ル法律上ノ禁治產者ノ離婚請求書ハ禁治產者ノ請求若クハ許諾アルニ非サレハ後見人代ハリテ之ヲ提出スルコトヲ得ス

第二百三十六條　裁判官ハ當事者召喚ノ命令ヲ以テ同時ニ原告ニ別居ノ許可ヲ與フルコトヲ得又原告カ婦ナルトキハ假住所ヲ指定スルコトヲ得

第二百三十七條　請求書及ヒ命令ハ召喚狀ノ冒頭ニ表示シ召喚狀ハ距離期間ノ

外少クトモ出廷ノ日ヨリ三日前ニ被告ニ送達スヘシ之レニ反スルトキハ其召喚狀ハ無效トス

前項ノ召喚狀ハ封緘ノ儘執達吏ニ之ヲ送達セシムヘシ

第二百三十八條　裁判官ハ指定ノ日ニ於テ當事者自身ヨリ申述ヲ聽取スヘシ當事者ノ一方カ出頭スルコト能ハサルトキハ裁判官ハ和解ヲ試ムヘキ場所ヲ指定シ又ハ被告ノ申述ヲ聽取スル爲メ裁判所ニ囑託スルコトヲ得和解カ不調ニ歸シ又ハ被告缺席シタルトキハ裁判官ハ和解ノ不調又ハ被告ノ缺席ヲ證明シ且原告ニ被告ヲ裁判所ニ出廷セシムルノ許可ヲ言渡スヘシ

裁判官ハ必要ト認メタルトキハ原告タル夫又ハ婦ノ住所、子ニ對スル假ノ保護若クハ夫婦各自ノ日用物品ノ交付ニ關シ決定ヲ與フルヲ得又必要ノ場合ニハ養料ノ請求ニ關シテモ決定ヲ與フルコトヲ得

前項ノ言渡ハ假執行ヲ爲スコトヲ得但之ニ對シ訴訟法第八百九條ニ規定セル期間內ニ控訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ因リ婦ハ裁判ノ終結ニ至ルマテ自己ノ權利ヲ保護スル爲メ總テノ訴訟行爲ヲ爲シ其他婦ハ訴訟ヲ提出シ且之レヨリ生スル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ許可セラルヘシ

裁判所カ事件ヲ受理シタルトキハ裁判官ノ命シタル假執行處分ハ婦ノ住所ニ關シテハ如何ナル場合ト雖トモ裁判官ノ卽決權ヲ害セサル限リハ裁判所ノ判決ヲ以テ訴訟ノ進行中之ヲ更正若クハ補充スルコトヲ得

裁判官ハ事情ニ因リ原告ニ被告ヲ法廷ニ呼出スノ許可ヲ與フル前二十日ヲ超過セサル期間內ニ於テ更ニ當事者ノ出廷ヲ延期スルコトヲ得但必要ナル假處分ヲ命スルハ此限リニアラス

離婚ヲ請求セル夫又ハ婦ハ被告呼出ノ許可ノ決定ノ日ヨリ二十日間ニ之ヲ實行スヘシ

前項ノ期間內ニ請求者タル夫又ハ婦カ呼出ヲ爲ササルトキハ請求者ノ利益ノ爲メ與ヘラレタル假處分ハ當然其效力ヲ失フ

第二百三十九條　離婚ノ訴訟ハ通常ノ法式ニ依リ審理裁判ヲ爲スヘシ但檢事ハ之ニ立會フヘシ

原告ハ如何ナル場合ト雖トモ離婚ノ請求ヲ別居ノ請求ニ變更スルコトヲ得

離婚ノ反訴ノ請求ハ單純ナル申立書ヲ以テス

裁判所ハ傍聽ヲ禁止スルコトヲ得

離婚訴訟ノ辯論ヲ印刷ノ方法ニ依リ公示スルコトハ千八百八十一年七月三十日ノ法律第三十九條ヲ以テ百「フラン」以上二千「フラン」以下ノ罰金ヲ科シテ之ヲ禁止ス

第二百四十條　裁判所ハ職權ヲ以テ又ハ訴訟當事者ノ一方ノ請求、親族會員若クハ檢事ノ請求ニ因リ子ノ利益ニ關シ必要ト認ムル假處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ訴訟期間內子ノ養料若クハ日需品其他緊急處分ニ關スル請求ニ付キ決定ヲ與フヘシ

第二百四十一條　婦ハ指定セラレタル一定ノ家屋ニ住居スルコトヲ證明スヘキ旨ヲ求メラルル毎ニ之ヲ證明スヘシ此證明ヲ爲ササルトキハ夫ハ養料ヲ拒ムコトヲ得婦カ離婚ノ原告ナルトキハ其請求ノ繼續ヲ許ササルノ言渡ヲ受ケシムルコトヲ得

戶籍法令大全

第八號目次

第一條乃至第四條ニ關係アル法令

一　市制……四七
二　町村制……四七

第五十五條　市長及助役其他參事會員ハ第十五條第二項ニ揭載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス同條第四項ニ揭載スル者ハ名譽職參事會員ニ選擧セラルヽコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ市參事會員タルコトヲ得ス若シ其緣故アル者市長ノ任ヲ受クルトキハ其緣故アル市參事會員ハ其職ヲ退ク可シ其他ハ第十五條第五項ヲ適用ス

市長及助役ハ三箇月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失フモノトス

第一條　第四條　市制町村制

第五十七條　有給町村長及有給助役ハ三箇月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失フモノトス

第五十六條　市長及助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ府縣知事ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十七條　名譽職參事會員ノ選擧ニ付テハ市參事會自ラ其效力ノ有無ヲ議決ス

當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ效力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ市參事會之ヲ議決ス其議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得其他ハ第三十五條末項ヲ適用ス

第五十八條　市ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ市參事會ノ推薦ニ依リ市會之ヲ

第五十八條　有給町村長及有給助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ郡長ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條　町村長及助役ノ選擧ハ府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第六十條　府縣知事前條ノ認可ヲ與ヘサルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス若シ府縣參事會合意セサルモ猶府縣知事ニ於テ認可ス可カラストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得

府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

第六十一條　町村長又助役ノ選擧其認可ヲ得サルトキハ再選擧ヲ爲ス可シ再選擧ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選擧ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間認可ノ權アル監督官廳ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及ヒ助役ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第六十二條　町村ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ町村長ノ推選ニ依リ町村會

ヲ選任ス

收入役ハ市參事會員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

收入役ノ選任ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其他ハ第五十一條、第五十二條、第五十三條、第五十五條及第七十六條ヲ適用ス

收入役ハ身元保證金ヲ出ス可シ

之ヲ選任ス

收入役ハ有給吏員ト爲シ其任期ハ四年トス

收入役ハ町村長及助役ヲ兼ヌルコトヲ得ス其他第五十六條第二項、第五十七條及第七十六條ヲ適用ス

收入役ノ選任ハ郡長ノ認可ヲ受ク可シ若シ認可ヲ與ヘサルトキハ郡參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス郡參事會之ニ同意セサルモ猶郡長ニ於テ認可ス可カラストノ爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得

其他第六十一條ヲ適用ス

郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

收入支出ノ寡少ナル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十三條　町村ニ書記其他必要ノ附屬員竝使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但町村長ニ相當ノ書記料ヲ給與シ書記ノ事務ヲ委任スルコトヲ得

町村附屬員ハ町村長ノ推選ニ依リ町村會之ヲ選任シ使丁ハ町村長之ヲ任用ス

第五十九條　市ニ書記其他必要ノ附屬員竝使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ市參事會之ヲ任用ス

第六十條　凡市ハ處務便宜ノ爲メ市參事會ノ意見ヲ以テ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス但東京、京都、大阪及人口二十萬以上ノ市ニ於テハ區長ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得（三十三年法律第四十六號ヲ以テ條中追加）

區長及其代理者ハ市會ニ於テ其區若クハ隣區ノ公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス區會（第百十三條）ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選擧ス但東京、京都、大阪及人口二十萬以上ノ市ニ於テハ市參事會之ヲ選任ス

第六十四條　町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ爲メ町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス

區長及其代理者ハ町村會ニ於テ其町村ノ公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス區會（第百十四條）ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選擧ス

◉改正刑法ニ付キ新著書紹介ノ廣告

新刑法實用

（三版）

司法大臣　松田正久閣下題字
司法次官　河村譲三郎閣下題辭
大審院部長　富谷鉎太郎閣下序
内務省警保局長　古賀廉造閣下序
司法省民刑局長　平沼騏一郎閣下序
司法省參事官　谷田三郎先生校閲
日本法令審査會主事　宍戸深藏著

菊版四百八頁　總クロース綴上製

定價金壹圓五拾錢　送費金拾錢三部以上送費不要

本書ハ逐條講義トシ各頁ヲ二段ニ區別シ上欄ニ舊刑法ヲ揭ケ、中欄ニ新刑法、下欄ニ改正ノ理由ト說明トヲ詳述ス

本書ハ未ダ江湖ニ顯ハレザル材料ニ依リテ編纂著述シタルモノナリ

申込所　東京市神田區今川小路三丁目六番地　明倫館

明治三十九年十一月十九日第三種郵便物認可　（毎月一回十五日發行）

○教育家諸彦へ緊急廣告○

文部大臣秘書官　法學士　赤司鷹一郎先生校閲
文部省參事官　戸深藏著

通俗教育　刑法上の修身訓

菊版總クロース上製
百五十頁
定價金七拾錢
三部以上金五拾錢
送費壹部金八錢

本書は言文一致體を用ひ刑法に如何なる修身觀念を包含し居るやを一見明白ならしむ教育に從事せらるゝ方々は勿論國民の指導の重任を負はるゝ市町村長諸彦には一日も缺くべからざる寶書なり

申込所　東京市神田區今川小路三丁目六番地　明倫館

明治三十九年十二月十九日第三種郵便物認可
明治四十年八月十五日發行（毎月一回十五日）

川和第三八二號

石籍叢書

第九號

石籍學會

○戸籍叢書内容一覧

戸籍法實用　ハ戸籍、親族、相續ニ關スル通牒其他ノ實例新例等ヲ根據トシ常ニ前月マデノ新例ヲ類集シテ戸籍事務取扱方ヲ詳述シタルモノナリ

舊慣例集　ハ民法施行前ノ舊慣例ヲ施行當時ヨリ遡ホリテ編年的ニ類集シタルモノナリ

○明治四十年春季ノ全國地方裁判所長會同ノ際上京員諸君ノ御希望ニ因リ自今舊慣例集ノ頁數ヲ增加スルコトトセリ

人事判例集　ハ民法施行後ノ大審院判決ヲ編年的ニ類集シタルモノナリ

外國婚姻令集　ハ英米獨佛其他外國ノ法令中婚姻ニ關スルモノヲ摘譯シテ類集シタルモノナリ

戸籍法令大全　ハ戸籍法ニ關係アル諸法令ヲ戸籍法ノ規定順序ニ類集編纂シタルモノナリ

戸籍法實用

○戸籍法實用ハ著者ノ私見ニアラス正確ナル實例ニ依リテ編纂著述シタルモノナルヲ以テ各條ノ下說明少ナキ箇所アルハ卽チ未タ其筋ニ於テ問題ト爲リタルコトナキヲ示ス故ニ讀者ハ問題少ナキ箇條ニ就キ十分研究ノ上新ナル省議ヲ誘發セラレンコトヲ望ム

○戸籍法實用ハ新例ヲ生スル毎ニ取リ集メ修正スルノ必要アルヘキヲ豫見シタルカ故ニ條毎ニ別葉トセリ（然ラサレハ一ケ條中修正ヲ加フル必要アル爲メ他ノ頁ヲモ改版スルニ至ルヘケレハナリ）

第九號目次

第三十七條……い頁數……一四七

第三十七條　登記ヲ爲シタルトキハ届書其他登記ニ關シテ受附ケタル書類ニ登記ノ番號年月日ヲ記載シ登記簿ノ區別ニ從ヒ各別ニ之ヲ編綴シ且之ニ目錄ヲ附スルコトヲ要ス

本條ハ登記後ノ届書類取扱方ヲ規定シタルモノナリ

一　届書類ノ意義

本條ハ其他登記ニ關シテ受附ケタル書類トハ届書ノ附屬書類例ヘハ死亡届ニ添付スル診斷書ノ如キヲ云フモノニアラスシテ第十五條第二號乃至第六號ノ書類ヲ云フモノトス

二　登記ノ番號及ヒ年月日

登記番號ノ記載方ハ本籍人出生登記第何號本籍人死亡登記第何號ノ如ク登記ノ部類ヲ冒頭ニ冠記スヘシ

第二十六條ノ場合ニハ受附番號ハ一個ナルモ登記番號ハ各別ニ付ス

本條ノ年月日ハ受附月日ニアラスシテ登記ノ年月日ナリ

婚姻證書ヲ差出スヘキ場合ニ於テ其證書ノ外ニ届書ヲ差出シタルトキハ登記ノ上登記番號及年月日ヲ婚姻證書謄本餘白ニ記載シ受附印モ同樣餘白ニ押捺スヘシ

本條ニ依リ番號年月日ヲ記載シタルトキハ別段戸籍吏ノ職印ヲ押捺スルニ及ハス

三書類ノ編綴方

本條ノ目錄ハ登記簿ノ區別ニ從ヒテ編綴シタル書類ニ各別ニ之ヲ附スルコトヲ要スルカ故ニ索引體ニ之ヲ作成スヘシ

目錄ハ一事件毎ノ目錄ニアラスシテ目錄ハ受附番號、年月日、書類ノ枚數、當事者ノ氏名等ヲ連記シ編綴シタル届書ニ添付スヘシ

書類ニハ次ノ如キ表紙ヲ付スルモ差支ナシ

何年何月分
本籍人（非本籍人）身分届書
出生（死亡）ノ部　何戸籍役場

四届書類ノ閲覽、謄抄本ノ下附

身分登記ニ付テハ閲覽、謄本又ハ抄本ノ下附ヲ許ス規定アルモ身分ニ關スル届書ノ附屬書類ニ付テハ法令ニ規定スルヲ以テ其閲覽又ハ謄抄本ノ下附及ヒ證明等ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

舊慣例集

第九號目次

（明治二十七年分完）

		頁數
五十四	家女ノ離婚	一四五
五十五	傍系姻族間ノ婚姻	一四五
五十六	縁女ノ解縁	一四五
五十七	縁女ト他男子トノ婚姻	一四五
五十八	再相續者ト前戸主ノ入夫トノ續柄	一四六
五十九	庶子ト實母トノ續柄	一四六
六十	尊族親ノ解	一四六
六十一	卑屬親ノ解	一四七
六十二	復籍シタル二男ト四男トノ間ニ於ケル相續權	一四七
六十三	天災ニ因ル行衛不明者ノ相續權	一四八
六十四	養嗣子ノ相續權	一四八
六十五	離婚シタル妻ノ養子縁組	一四九
六十六	離婚シタル母ノ實子ノ家ヘ入籍	一四九
	屆出ニ因リテ效力ヲ生スヘキ事件ノ登記方	一五〇
	叔姪間ノ婚姻	一五〇
	養父ノ長男ノ呼稱	一五〇
六十七	亡夫ノ子ト女戸主トノ續柄	一五〇
六十八	姉妹ノ夫ト戸主トノ續柄	一五一
六十九	壻養嗣子ト妻ノ親族トノ續柄	一五一
七十	縁女ノ夫ノ呼稱	一五一
七十一	養嗣子ノ妻ト爲リタル長女ノ呼稱	一五一
七十二	妻ノ弟妹カ養子女ト爲リタル場合ノ呼稱	一五一
七十三	入夫ト女戸主ノ兄弟姉妹トノ續柄	一五一
七十四	孫女ノ入夫ノ呼稱	一五一
七十五	孫ノ妻ノ呼稱	一五二
七十六	孫女カ壻養嗣子ヲ爲シタル場合ノ呼稱	一五二
七十七	隱居者ノ相續權	一五三
七十八	復籍者ノ相續權	一五三
七十九	本家相續ニ因ル廢嫡	一五三
八十	入夫ト女戸主ノ養嗣子トノ續柄	一五四
八十一	相續人定メノ要件	一五四
	該相續人ト其後ノ出生子トノ間ニ於ケル相續權	一五四
八十二	養子女ノ携帶子ノ離縁携帶復籍	一五五
	婦妻同斷	一五五
八十三	廢家ノ要件	一五五
八十四	養子カ妻携帶分家後ノ離縁	一五五
八十五	實家廢絶シタル者ノ再縁組	一五五
	再婚	一五五
八十六	棄兒ノ登記方	一五六
八十七	廢家再婚ノ要件	一五七

八十八　後見人ノ數……一五七
八十九　後見人ノ解任手續……一五七
九十　長女ノ壻養子ニ女子出生シタル後ノ再壻養子縁組……一五八
九十一　失踪者ノ妻ノ子女携帯復籍……一五九
九十二　女戸主ノ子ト入夫ノ子トノ婚姻……一五九
九十三　養子戸主ノ離縁……一六〇
　入夫戸主ノ離縁……一六〇
九十四　遺産相續……一六二
九十五　分家後ノ出生子ト入籍シタ子トノ間ニ於ケル相續權……一六三
九十六　婚姻ニ因リテ嫡出子ト爲リタル者ノ相續權……一六四
　同　呼稱……一六五
九十七　親族間ノ婚姻……一六七
九十八　失踪中ノ長女ノ廢嫡……一六八
九十九　兄弟姉妹間ノ婚姻……一六九
　伯叔父姑甥姪間ノ婚姻……一六九
百　死亡者ノ長男女ノ幼年ナルニ因ル廢嫡……一六九
　失踪者同斷……一六九
百一　婚姻ニ因リ嫡出子ト爲ル要件……一七〇
　養家ニ入籍セシメタル長男ノ呼稱……一七〇
百二　家族ノ養子縁組……一七一
百三　寡婦ノ解釋……一七二

岡山縣照會（二十七年三月二十八日）

第九項　養嗣子ニアラスシテ家女ノ妻ヲ離婚スル場合ハ願濟セシムヘキ筋無之哉

第九項　御意見ノ通

民刑局長
警保局長　回答（二十七年五月十四日）

岡山縣照會（二十七年三月二十八日）

第十四項　甲ノ妹ヲ乙ノ妻ニ又タ乙ノ妹ヲ甲ノ妻トスルハ差支無之哉

第三十三項　長女縁女ニ配偶セシムヘキ習養嗣子ヲ廢嫡シ他ノ養子ヲ以テ嗣子トスル場合ハ同時ニ其縁女ヲ解縁スルカ將タ廢嫡セシメサルヲ得サル筋ニ候ヤ果シテ然ラハ其解縁若クハ廢嫡セル長女ヲシテ更ニ嗣子ニ確定セル養子ニ配偶若クハ其縁女トナサンカ爲メ一旦他ノ養女トシ更ニ養嗣子ノ妻トシ入籍セントスルモ異倫ノ結婚ニ係ルヲ以テ其廢嫡セル養子ノ養家ニ存在中ハ結婚スルヲ得サル筋ニ候ヤ

舊慣例集　二十七年分

民刑局長
警保局長　回答（二十七年五月十四日）

第十四項　御意見ノ通

第三十三項　前段解緣又ハ廢嫡ヲ要セス後段解緣ノ上更ニ定メタル養嗣子ノ配偶若クハ緣女トスルニハ他ノ養女ト爲スヲ要セス

岡山縣照會（二十七年三月二十八日）

第十五項　妹ニ夫ヲ迎ヘタル後退隱シ其實父再相續シタルトキ該父ヨリ家女ノ夫（前戶主ノ妹ノ夫）ヲ聟養子ト稱スヘキヤ

第二十二項　私生子ノ男子ヲ己レノ子ト認メ庶子トシ父籍ニ編入後更ニ生母（女戶主）ノ實子トシテ引受クル場合ノ續柄ハ夫子トスヘキヤ將タ夫ノ庶子男、女トスヘキ筋ニ候ヤ

第三十二項　尊親屬トハ高祖父母、祖父母、父母、伯叔父母、兄姉ナルカ將タ其父母ヨリ始親ニ至ル親系卽チ高祖父母、曾祖父母、祖父母、父母ニ限リ候ヤ又タ卑屬トハ子、孫、弟、妹、甥、姪等ナルカ將タ子孫ニ至ル直系卽チ子孫ニ限リ其他直系ニアラサル伯叔父母、甥、姪、從兄弟等ヲ傍系ノ親屬ト稱スヘキ筋ニ候ヤ

民刑局長
警保局長　回答（二十七年五月十四日）

第十五項　戶籍ニハ單ニ養子ト記ス

第二十二項　私生子ト額書ス

第三十二項　尊屬親卑屬親トハ傍系親ヲ包含ス

富山縣照會（二十七年五月一日）

數人ノ男子ヲ有スル者最初二男ヲ他家ノ養子ト爲シ爾後長男ヲ願濟廢嫡ノ上他ヘ養子ニ遣ハシ三男ヲ以テ嗣子ニ定メタル後三男死亡シ其際四男ヲ以テ嗣子ト爲スノ屆出ヲ爲サヽルモ相續權ハ當然四男ニ移リタルモノト被存候然ルニ三男死亡後未タ四男ノ公定嗣子タル手續ヲ爲サヽルトキニ男養家離緣復籍セリ此場合ニ於テハ二男ヲ嗣子ト爲シ得ヘキ歟將タ一旦他家養子ト爲リ當時相續權ヲ失シタルモノニ付無論四男ヲ嗣子ト定ム可キ歟

民刑局長回答（二十七年五月十七日）

四男ヲ未タ嗣子ニ定メサル前ニ男復籍シタル場合ニ於テハ二男ヲ嗣子ニ定ムヘキモノト思考ス

山口縣照會（二十七年五月七日）

一、長二三男及孫其他老幼ノ家族ヲ有スル老年戸主アリ從來漁業稼ヲ爲シ長二三男ノ助力ヲ以テ生活スルモノニ有之候處客年十月出漁ノ際暴風ノ爲メ長二三男共行衛不分明ニ付失踪屆出ノ處素ヨリ漁業ヲ以テ漸ク糊口ヲ凌ク有之候處者ニシテ一家ノ柱石タル成年ノ者ヲ失ヒ目下生活上困難ニ付糊口ノ目途ヲ立ツル爲メ一家ノ都合ニ依リ親族協議ノ上老年戸主退隱失踪ノ長二三男ヲ廢嫡シ孫ヲ以テ跡相續爲致度旨請願スルモノ有之事情憫然ノ次第ニ候得共右ハ實際如何ナル事情アリト雖モ失踪後十箇月ヲ經過セサレハ廢嫡不相成義ニ候也

二、長二三男アルモノノ廢嫡ノ許可ヲ得スシテ養嗣子ヲ貰受ケ已ニ戸籍ニ登記セシモノ有之右ハ廢嫡ノ許可ヲ得サルモノニ付養嗣子ノ入籍ハ無效ニ屬スルヤ將タ又許可ヲ得サルモ戸籍ニ登記ノ上ハ自然長二三男ハ廢嫡ニ屬シ養嗣子ノ入籍ヲ無效トスル義ハ不相成義ニ候也

民刑局長回答（二十七年五月二十四日）

第一項　事實明確ナルニ於テハ死亡者ニ準シ跡相續開屆相成然ルヘシ

第二項　入籍ニ付親族間異議ナキ限リハ其儘差置然ル可シ

山口縣照會（二十七年五月七日）

三、離緣ノ養女ヲ妻ニ娶ルハ不相成候處離緣セシ妻ヲ更ニ養女ニ貰受クル等モ等シク倫理上穩當ナラサルニ付不相成義ト心得可然哉

民刑局長回答（二十七年五月二十四日）

第三項　御意見ノ通

山口縣照會（二十七年五月七日）

四、父ノ離緣セシ實母ヲ孝養ノ爲メ分家後其籍ヘ引取ルハ父存生スト雖モ父ト同籍セサルヲ以テ差支無之ヤ又ハ父死亡後ニアラサレハ假令籍ヲ同フセスト雖

モ入籍不成義ニ候ヤ

民刑局長回答（二十七年五月二十四日）

第四項　父生存中ト雖モ親族協議出願ノ上ハ入籍聞届相成然ルヘシ

岡山縣問合（二十七年四月十日）

第一項　裁判宣告ニ係ル戸籍加除異動等ハ届出期限ナキヲ以テ戸籍取扱手續第十條ニ依リ其宣告月日ヲ記セス届出月日ヲ登記スヘキ筋ニ候ヤ

第三項　男子ヲ有セサル養戸主ノ長女ヲ養父ノ長男（戸主ノ養弟）ニ配偶セシムル爲メ其長女ヲ一旦他ノ養女トシ更ニ入籍スルト同時ニ該長男ヲ繼嗣者ニ確定スル場合ノ長女額書ハ其儘登記シ其養弟額書ヲ養弟トスヘキカ將タ猶子ト記載スヘキ筋ニ有之候ヤ

第五項　女戸主ヨリ亡夫ノ亡前妻ノ子女（亡父ノ長男女）ヲ亡夫ノ子ト額書シ亡夫名長男女ト肩書シ又亡夫ノ後妻卽女戸主ノ實子女（亡夫ノ二男）ノ肩書ヲ亡夫名二男トシ其額書ハ長男ト稱シ登記スヘキヤ

第八項　養實戸主ノ養實姉妹ニ夫ヲ迎ヘ戸主ノ相續人トシ相續セシメタル該戸主ヨリ妻（家女）ノ尊族及傍系親ニ對スル續柄ハ妻ノ父母兄弟姉妹ト稱スヘキ將タ養父母兄弟姉妹ト稱スヘキ筋ニ候ヤ

第九項　長女ニ壻養嗣子ヲ貰受ケ相續セシメタル後該養戸主ヨリ妻ノ父母ヲ養父母トシ其傍系親ヲ妻ノ兄弟姉妹トシ得ヘキカ將タ養兄弟姉妹ト稱スヘキ筋ニ候ヤ

第十項　緣女ヨリ其未婚夫ヲ夫トシ得ヘキカ將タ未婚夫ト稱スヘキヤ

第十二項　長女ヲ養嗣子ニ配偶セシムル爲メ該長女ヲ一旦他家ノ養女トナシ更ニ入籍セシムル場合ハ依然長女ト額書スヘキ義ニ候ヤ

第十五項　妻ノ實家ノ弟妹ヲ養子女トナシタルトキハ其姉（戸主ノ妻）ヲ養母ト稱スヘキヤ

第十六項　傍系者ヲ有スル女戸主ニシテ夫ヲ迎ヘ繼承セシメタル該戸主ヨリ其傍系者ヲ養兄弟姉妹ト稱スヘキヤ

第十八項　孫女ニ夫ヲ迎ヘタルトキハ孫壻トシ得ヘキカ將タ孫夫ト稱スヘキヤニ

第十九項　長孫ニ妻ヲ娶リタルトキハ孫婦トスヘキカ將タ孫妻ト稱スヘキ義ニ候ヤ

第二十一項　外孫ヲ以テ繼嗣ニ確定シ入籍同時ニ孫女ノ聟養嗣子トナス場合ノ孫女ノ額書ヲ婦ト登記スヘキ筋ニ候ヤ

民刑局長　警保局長　回答（二十七年五月二十六日）

第一項　屆出ノ日ヨリ效力ヲ生スヘキモノハ御見込ノ通

第三項　血緣ナキ叔姪ナラハ特別ノ事情アルモノニ限リ結婚聽許相成可然養弟額書ハ相續人ト記シ其妻ハ普通結婚入籍者ノ例ニ同シ

第五項　前妻ノ子ト己ノ子トヲ分タス長次男女ト額書シ亡夫名義男女ト肩書スヘキモノトス

第八項　後段御意見ノ通

第九項　後段御意見ノ通

第十項　稱呼ナキモノトス

第十二項　婦ト額書ス

第十五項　御見込ノ通

第十六項　御見込ノ通

第十八項　養孫ト稱ス

第十九項　前段御見込ノ通

第二十一項　孫女ニ配偶スル者ニ付養孫トシテ入籍セシムヘク其孫女ノ額書ハ更ムルニ及ハス養孫名妻ト肩書スヘキモノトス

岡山縣照會（二十七年四月十日）

第二項　子女ナキ實養戶主退隱シ其實養父母再相續シタル場合ノ退隱者ハ其事故ノ解否ニ不拘更ニ嗣子ノ確定屆ヲ爲サヽルヘキカ又ハ確定屆ヲ爲サヽルヲ以テ嗣子權ヲ享有スヘキ筋ニ候ヤ

第四項　曾テ廢嫡他ノ養子ニ送籍セル長男離緣復歸シ其家ニ女子ノミナルカ若クハ子女アラサルトキハ自ラ該長男ニ於テ嗣子權ヲ享有スヘキカ將タ嗣子ノ確定屆ヲ爲サヽルヲ以テ其權利ヲ有サセル筋ニ有之候ヤ

第七項　分家戶主ノ嫡子孫ヲシテ子女ナキ本家戶主ノ死跡ヲ繼承セシムル場合ハ

ハ該長男ノ廢嫡ヲ要セス直ニ届出ニ就キ送籍シ得ル義ニ候ヤ

第十一項　養嗣子ヲ有スル女戸主ニシテ養嗣子幼弱ノ爲メ夫ヲ迎ヘテ相續セシメ該養嗣子ヲ嗣子ニ確定スル場合ハ依然養嗣子トシ得ヘキカ將タ長男ト稱スヘキ筋ニ候ヤ

第十二項　子女ナキ戸主ニシテ豫メ其養實兄弟長男女ヲ有ス等ヲシテ相續人ニ確定シ得ヘキ筋ニ候ヤ果シテ然ラハ右確定後該戸主ニ於テ實子女ヲ擧クルモ勿論其子女ハ嗣子權ハ無之儀ニ候ヤ

民刑局長
警保局長回答　（二十七年五月二十六日）

第二項　御見込ノ通

第四項　子女ナキトキハ前段御見込ノ通子女アル場合ハ後段御見込ノ通

第七項　廢嫡願ヲ要ス

第十一項　前段御見込ノ通

第十三項　前段弟ハ相續人ニ豫定スルヲ得ヘシ兄ハ不相成後段御見込ノ通

岡山縣照會　（二十七年四月十日）

第六項　養子女又ハ婦妻ニシテ其携帯セル子女ハ其父母離縁ノ際携帯復歸スルカ將タ實家戸主ノ親族入籍ニ相當スルモノヽ外其實家ヘ復歸セシムルコトヲ得サル筋ニ候ヤ

第十七項　養父母竝養兄弟等ヲ有スル養戸主家計窮迫維持ノ目的ナク且其尊族等ハ老幼等ニシテ自活シ能ハサル場合ハ廢家シ該尊族等携帯復歸シ得ヘキ義ニ候ヤ

第二十項　養子（嗣子ニアラス）其妻（家女）携帯分家離縁復籍スル場合ハ出願セシムヘキ事柄ニ有之候ヤ

第二十三項　婦妻若クハ養子女等離縁他ノ養子女又ハ改嫁スルニ際シ其實家廢絶セル場合ハ一旦斷縁ノ上直ニ該家ヨリ送籍スルコトヲ得ヘキ義ニ候ヤ

民刑局長
警保局長回答　（二十七年五月二十六日）

第六項　前段御見込ノ通

第十七項　御見込ノ通

第二十項　御見込ノ通

第二十三項　御見込ノ通但實家ノ氏ヲ採用スヘキハ勿論ノ義トス

岡山縣照會（二十七年四月十日）

第十四項　棄兒ヲ拾ヒ揚ケテ戸籍ニ登錄スヘキ月日ハ其旨告知ニ依リ該市町村長ニ於テ立會本人骨格等ヲ檢査シ一旦市町村ノ戸籍ニ登記ノ處分ヲ爲シタル月日ニ有之候ヤ

民刑局長警保局長回答（二十七年五月二十六日）

第十四項　現ニ拾上ケタル年月日ヲ記ス

岡山縣照會（二十七年四月十日）

第二十二項　女戸主貧窮ノタメ無止廢家シ他ヘ改嫁ノ際一旦其實家ヘ復歸セシテ直ニ嫁家ヘ送籍スルヲ得サル筋ニ候ヤ

民刑局長警保局長回答（二十七年五月二十六日）

第二十二項　廢家再嫁ハ實家ヘ復歸スルニ及ハス

京都府伺（二十七年五月二十三日）

一、後見人ノ人員ニ關シテハ未タ法律上ノ規定ナシト雖モ通常一人ニ限ルヘキコト勿論ト相考候處地方舊來ノ慣行ニ依リ若クハ財產管理上ノ必要等ニ依リ親族協議ノ上二人以上ノ後見人選定届出候モノ往々有之右ハ別段制限モ無之義ニ付市町村長ハ其儘受理シ可然ヤ若シ如何ナル事情アルモ二人以上ヲ置クヘキモノニ非ストセハ從來届出タルモノニシテ二人以上ノモノハ此際總テ一人ニ改メサセ候義ト心得可然ヤ

二、後見人甚シキ不行跡アルカ又ハ不能若クハ不正實等ノ事由ニ依リ解任セントスル場合ニ於テ其後見人解任ヲ肯ンセサルトキハ遂ニ司法處分ヲ仰クニ至ルヘシト雖モ元來後見人ハ親族ノ協議ヲ以テ選任スヘキモノナルニ付市町村長ニ在テハ其諾否及改選ノ當否ヲ問ハス親族連署ヲ以テ届出ルトキハ有效ニ其届書ヲ受理スヘキコト勿論ト相心得可然ヤ

指令　（二十七年六月七日）

第一項　後段伺ノ通

第二項　伺ノ通

茨城縣照會　（二十七年六月四日）

一、長女ニ壻養子ヲ迎ヘ一女子ヲ擧ク然ルニ事故アリテ該養子ヲ離縁シタル後再ヒ壻養子ヲ迎ヘントスルトキハ長女ノ前夫子則一女子ノ廢嫡ヲ要スル義ニ候ヤ又ハ該長女ハ素相續者ナルニヨリ再ヒ壻養子ノ入籍ハ一女子ノ廢嫡ヲ要セサル義ナルヤ

一、前項廢嫡ヲ要スル義ニ候ハヽ其相續者ハ孫則一女子ヲ承祖孫ノ地位ニ置キ相續者ニ無之壻養子ヲ迎フルハ普通ノ壻養子ヲ爲ス場合ノ手續ニテ届出ニ止メシメ差支無之候ヤ

民刑局長回答　（二十七年六月九日）

第一項　前段御見込ノ通

第二項　御見込ノ通

德島縣伺　（二十七年六月二十三日）

一箇年餘ヲ經過スルモ茲ニ妻子（男女二兒）ヲ有スル戸主失踪（其弟アルモ是亦數ケ月前失踪）ノ者アリ一箇年餘ヲ經過スルモ復歸セサルヨリ遺族殆ント饑餓ニ頻スルノ場合ニ立至リ候ニ付親戚協議ノ上其遺妻離婚ノ上子女携帶復籍ノ義願出ノ者有之然ルニ其男兒ハ失踪者ノ跡相續ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ容易ニ難聞届筋ト存候得共右等事情不得止モノハ特ニ聽許不苦哉

指令　（二十七年六月二十八日）

失踪者ノ跡相續ヲ爲スヘキ子女ハ之ヲ携帶スルヲ得サル義ト心得ヘシ

京都府問合　（二十七年七月十九日）

長女ヲ有スル女戸主後夫ヲ迎ヘタルニ其後夫長男ヲ連子トシテ携帶シ其後親族協議ノ上其連子ヲシテ家督相續セシメタル場合ニ於テハ連子ト父ノ配偶者トハ

自然養母子ノ關係ヲ生シ隨テ其長女ハ養姉妹トナルヘキ筈ト存候處果シテ然ラハ右連子相續ノ上ハ假令血緣ナシト雖モ長女ト結婚不相成コト勿論ト被相考候得共聊カ疑義ニ亘リ候

民刑局長回答（二十七年八月十八日）

右ハ長女ヲ一旦他家ノ養女ト爲シ更ニ結婚スルハ差支ナキ義ト思考ス

内務大臣照會（二十七年七月十日）

養子戸主又ハ入夫戸主離緣復籍ノ件ニ關シ其復籍セントスルニハ必ス先ツ跡相續人ヲ定ムヘキハ本則ニ可有之モ福島縣照會ノ場合ノ如キハ夫婦ノ外他ニ相續者ナク妻ハ夫ト同籍ニ在ル間ハ相續ヲ爲スヲ得サルノ慣例ナルヲ以テ離緣復籍ニ先チ跡相續人ヲ定ムルヲ得サルノ事情アリ又戸主死亡ノ場合ニ於テ相續猶豫期間ヲ與フル以上ハ戸主離緣ノ場合ト雖モ特別ナル事情存スルモノニ限リ相當ノ猶豫期限ヲ與フルハ至當ノ義ト思考セラルヽノ旨御回答有之候處一旦家督ヲ相續シ戸主トナリタル以上ハ永久ニ其家ヲ保續スヘキ義務アルヲ以テ戸主タル者ハ如何ナル事情アル場合ト雖モ相續者ヲ定ムルニアラサレハ戸主ヲ罷ムルヲ得サルモノニ有之戸主死亡ノ場合ノ如キハ一家ノ保續者即チ跡相續人ヲ定ムヘキ義務アル者已ニ死亡シ其責務ヲ果サシムルヲ得サルノ故ヲ以テ其遺族ヲシテ戸主ヲ選定セシムル爲メ相當ノ猶豫期間ヲ與フルモノニシテ相續者ヲ定ムヘキ義務者ノ現存スル場合ニ對シ猶豫期間ヲ與ントスルノ引例トハ難相成元來特例ヲ用フルハ一般ノ規則ヲ以テ律スルヲ得サル即チ特例ニ依ルヲ要スル著大ノ理由ナカルヘカラス福島縣照會ノ如キハ即チ然ラス同場合ノ如キ相續人ヲ定メタル上ニアラサレハ離緣復籍スルヲ得ス但夫ノ離緣復籍スルトキノ如キ同籍ニ在ラサル場合ハ妻ヲシテ相續セシムルヲ得ルモノトシ夫ノ送籍ト同時ニ妻ヲシテ戸主タラシムルニ於テハ毫モ差支ナク一般ノ規則ニ依ラシムルヲ得ヘク決シテ特例ヲ用ヒサルヘカラサルノ必要ハ無之義ニ有之假令離緣ヲ屆出ルモ跡相續者ヲ定メサル間ハ數十年準用セル慣例モ有之候次第ニ付戸籍上復籍ヒシメ難キモノト思考致候條御再考相成度此段重ネテ及御照會候也

司法大臣回答（二十七年九月二十六日）

養子戸主又ハ入夫戸主離縁復籍セントスル場合ニ在テハ通例跡相續人ヲ定ムルハ戸主ノ義務ニ可有之候得共福島縣照會ノ場合ノ如キハ妻ノ外他ニ相續人タル可キモノナク且速ニ離縁復籍ヲ要スル事情等アルニ於テハ妻ヲシテ相續セシメントスルモ妻ハ夫ト同籍ニ在ル間ハ夫ノ跡相續ヲ爲スヲ得サルヲ以テ直チニ妻ヲ以テ跡相續人ト爲スコトヲ得ス故ニ戸主ヲシテ跡相續人ヲ定メ戸主タル義務ヲ盡サシムルコト能ハサルヲ以テ本件ノ場合ノ如キハ特例ニ屬スヘキモノニ付戸主死亡ノ場合ト同シク相續人選定ノ爲メ相當猶豫期間ヲ與フルコト至當ナルヘシ又夫ノ離縁送籍ト同時ニ妻ヲシテ相續セシムルハ差支ナキカ如シト雖モ夫ニシテ離縁復籍ノ手續終ラサル間ハ仍ホ戸籍上夫妻タルノ關係ヲ有スヘキモノニ付夫ヲシテ必ス送籍ト同時ニ妻ヲ跡相續人ニ定メシムルヲ得サル義ト思考ス

滋賀縣伺（内務省ヨリ合議）（二十七年八月一日）

第二條　家族ノ遺留財産ハ失踪ト死亡トヲ問ハス二十四箇月經過ノ後ハ前戸主所有ニ係ルモノハ當戸主ニ於テ相續シ其他ノ所有ニ係ルモノハ子孫ニ子孫ナキモノハ配偶者ニ配偶者ナキモノハ當戸主ニ於テ相續スヘキモノナル乎果シテ然ルモノトスルトキハ失踪者ニ數子アル場合ニ在テハ家督相續ノ順序ニ依リ相續可致筋ニ有之候ヤ

但財産ノ所有權ヲ繼承スヘキモノカ承諾シタル上ハ戸主ニ於テ本文ノ順序ヲ變更スルモ妨ケ無之候ヤ

（内務大臣司法大臣指令）（二十七年九月二十七日）

第二條　失踪ノ場合ニ於テハ除籍ノ日ヨリ五箇年間保管ノ後又死亡ノ場合ニ於テハ二十四箇月ノ經過スルヲ待タス直チニ遺産ヲ相續スルコトヲ得其相續方ハ總テ伺ノ通

山口縣問合（二十七年九月二十九日）

一去二十年八月二日附愛知縣知事伺第三條第四條ニ對シ同年十一月三十日附內務司法兩大臣御指令ノ旨ニ據レハ分家後妻ヲ娶リ男子ヲ擧ケタル後分家前嘗テ養家ニ於テ擧ケタル男子ヲ分家ニ引取リタルトキハ長幼ニ從ヒ長男二男三

男ト額書シ相續順序モ之レニ由ル義ニ有之然ルニ去二十四年十一月二十五日附京都府知事伺同年十二月二十四日附兩大臣御指令第四項ニ據レハ分家後入籍セシ長男ハ更ニ嗣子ト定メサレハ分家ノ際携帶セシ長女ニ先ツテ相續權ヲ有セサル趣ニ有之前後ノ御指令聊カ矛盾セシ哉ニ被相考候處如何心得可然哉

民刑局長回答（二十七年十月十九日）

第一項　明治二十年八月愛知縣伺ニ對スル指令ハ明治二十四年十一月京都府伺ニ對スル指令ニ依リ變更セラレタルモノトス

山口縣問合（二十七年九月二十九日）

第二項　甲家ヨリ乙家ノ養子ニ入籍相續シ丙家ノ女ヲ娶リ一男子ヲ擧ク然ルニ乙家ヘ入籍前ニ於テ右丙家ノ女ト私通シ私生子ヲ擧ケ己ノ子ト認メ已ニ庶子トシテ實家卽チ甲家ノ籍ヘ引取リタルトキハ其父母ハ已ニ結婚セルヲ以テ嫡出子タルヘキニ付右庶子ヲ長男トシ乙養家ニ於テ擧ケタル長男ハ二男ニ訂正スヘキ哉但乙養家ニ於テ擧ケタル長男ハ出生ノ際已ニ相續權ヲ有スルモノニ付二男ニ訂正スルニ拘ハラス相續權ハ依然乙養家ニ於テ擧ケタル男子ニ存在スルハ勿論ニ可有之哉

民刑局長回答（二十七年十月十九日）

第二項　庶子ハ其母正婚ノ日ヨリ嫡出子タルヘキモノニシテ出生ノ日ニ遡リ其權利ヲ得ヘキモノニ非サルヲ以テ養家ノ長男ニ先チ相續權ヲ有セス隨テ戶籍ニハ年長者ト雖モ次男ト記載スヘキモノトス

三重縣照會（二十七年十月一日）

一、親族中結婚スヘカラサルモノ

一、養繼父母及養繼父母タリシモノ

二、繼父母ノ子女

三、繼父母ノ兄弟姉妹

四、養子ノ兄弟姉妹

五、兄弟姉妹ノ養父母

六、配偶者タリシモノヽ子女
七、養兄弟姉妹
八、養實子孫ノ配偶者タリシモノ
九、養兄弟姉妹ノ子女
十、養實父母ノ兄弟姉妹
十一、配偶者タリシモノヽ父母
十二、兄弟ノ配偶者タリシモノ
但其者ト結婚セサレハ一家ノ浮沈ニ關スル等至重ノ事アリ特ニ官許ヲ得タルモノハ此限リニアラス
十三、子女ノ配偶者ノ兄弟姉妹
十四、兄弟ノ配偶者ノ父母

民刑局長回答（二十七年十月二十六日）

親族中相互ニ結婚スルコトヲ得サル者ハ大略御意見ノ通ト存候得共左記ノ者ハ特許ヲ上結婚許可相成然ルヘキ義ト思考ス

一、血緣ナキ兄弟姉妹及伯叔父姑甥姪
右ハ特別ノ事情アルモノニ限リ聽許スヘキモノ
一、伯叔父母甥姪ノ前配偶者
右ハ離緣セシ場合ノ外特別ノ事情アルモノニ限リ聽許スヘキモノ

長崎縣照會（二十七年十月十五日）

長女ヲ有スル戶主明治十六年中ニ死亡シ該長女ハ父死亡前明治十四年ニ於テ失踪シ親戚中ニモ相續セシムヘキモノ無之趣ヲ以テ親戚協議ノ上失踪ノ長女ヲ廢嫡シ他ヨリ相續セシメ度段願出ツルモノアリ然ルニ明治十八年鹿兒島縣伺ニ對シ單身戶主失踪逃亡ノ場合ニ於テハ相續方不相成旨內務省指令有之右ニ依リ推考スレハ假令戶主ニ非スト雖モ失踪ノ長女ヲ廢嫡シ他人ヲシテ相續セシムル義モ許可難致樣被考處分方疑義ニ涉リ候條何分ノ御回報相成度候

民刑局長回答（二十七年十月二十六日）

右ハ已ムヲ得サル事情アル場合ニ於テ親族協議ノ上出願セシトキハ聽許相成可

然義ト思考ス

三重縣問合（二十七年十一月八日）

一、血緣ナキ兄弟姉妹及伯叔父姑甥姪ニシテ特別ノ事情アルモノハ聽許スヘキ趣
然レハ養兄妹等續柄ノ儘結婚セシムル趣旨ニ候哉

但伯叔父姑トハ伯叔父母ノ意ナルカ

一、前項果シテ然ラハ一且養兄妹等ノ續柄ヲ生シタルモ既ニ斷緣ノ上ハ隨テ其稱呼消滅ニ付是等ハ無論出願セシムルヲ要セサル義ニ候哉

一、伯叔父母甥姪ノ前配偶者ハ離緣セシ場合ノ外特別ノ事情アルモノトハ前配偶者生存スルモノハ許可セサル趣意ニ候哉

刑民局長回答（二十七年十一月二十四日）

第一項　特別ノ事情アルモノニ限リ聽許スヘキ場合ト雖モ續柄ノ儘結婚セシムル旨趣ニハ無之一且實家ニ復籍シ又ハ他家ノ養女等ト爲シタル上結婚セシムル義ニ有之候

但書御見込ノ通

第二項　一且養兄妹等ノ續柄ヲ生シタル者ハ斷緣ノ上ト雖モ其結婚ニ付テハ出願ヲ要スヘキモノトス

第三項　御見込ノ通

千葉縣照會（二十七年十一月十九日）

戶主死亡遺族ハ長男女ノミナルモノ及戶主失踪其妻及長男女等アルモノ一家維持上長男幼少ノ故ヲ以テ長女ニ聟養子ヲ迎ヘ相續セシメントシ右長男廢嫡ノ義親族又ハ尊屬ヨリ願出タルモノ有之候處戶主死亡又ハ失踪ノ場合ニ於テハ廢嫡スルヲ得サル義ト存候得共判明不致候ニ付否ヤ御回報相成度候

民刑局長回答（二十七年十一月二十九日）

第一戶主死亡シ其長男女アルモ長男幼少ナルヲ以テ長女ニ聟養子ヲ爲サントスルトキハ明治九年太政官第五十八號達ニ依リ養子ヲ爲スヘキモノニ付キ事情止ヲ得サルモノニ限リ廢嫡聽許相成然ルヘシ

第二戸主失踪シ其妻及ヒ長男女アルモ長男幼少ナルヲ以テ長女ニ聟養子ヲ爲サントスルトキハ失踪後十箇月經過ノ上親族協議出願シ事情止ムヲ得サルモノニ限リ廢嫡聽許相成然ルヘシ

山口縣問合（二十七年十月二十九日）

實家ニ在ル子女ヲ分家及ヒ養家ヘ引取リタル場合其相續權等ニ關シ客月二十九日附問合ニ對シ本月十九日附御回答ノ趣了承致候然ルニ第二項庶子ハ其母正婚ノ日ヨリ嫡出子タルヘキモノ云々ト有之由テ考フルニ曩ニ御問合セ及ヒタル場合ハ實家ニ在ル庶子ヲ養家ニ引取リタルハ養家ニ於ケル長男出生後ナルモ其父母ノ正婚セシハ養家長男出生前ナルヲ以テ其際右庶子ハ已ニ嫡出子タルヘキモ其當時父母ト籍ヲ同フセサルヲ以テ依然庶子ヲ以テ取扱ヒ父母ノ籍ヘ引取リタルトキヲ以テ始メテ嫡出子ノ取扱ニ爲スヘキ義ナルヤ果シテ然リトスル甲家ノ二三男妻ヲ娶リ長男ヲ擧クルノ後チ其長男ヲ遺シ夫妻共乙家ヘ養子入籍更ニ長男ヲ擧ケタル後右實家ヘ遺シタル長男ヲ乙養家ヘ引取リタル場合ハ最前及御問合候如ク養家ノ長男ハ二男ニ訂正而シテ相續ノ權ハ依然其二男ニ存スル哉

民刑局長
警保局長回答（二十七年十一月三十日）

一、前段庶子カ父母正婚ノ日ヨリ嫡出子ト爲ルハ父母ト同籍ニ在ル場合ニ限ルモノニシテ若シ同籍ニ在ラサル場合ニハ庶子ヲ父母ノ籍ヘ引取リタル時ヨリ嫡出子タル身分ヲ得ルモノトス

一、後段長男ヲ擧ケタル後他家ノ養子ト爲リタル場合ニ於テハ養家ノ相續權ハ養家ノ長男ニ屬シ戸籍ニハ養家ニテ擧ケタル長男ノ次ニ實家ヨリ引取リタル長男ヲ實家長男ノ名稱ヲ以テ記載スヘキモノトス

岩手縣伺（二十七年十一月二十七日）

嗣子タル者壯年ニ及ヒ實子ナキ場合ノ外非戸主タル者ハ養子致候義不相成旨明治十年二月中內務省ヨリ福島縣ヘ指令ノ趣モ相見候處右嗣子タルモノ壯年ニ及ヒ實子ナキカ爲メ養子ヲ爲サントスル場合ハ單ニ市町村長ニ屆出ノミニテハ不相成モノトシ先ツ其事實ヲ具シ出願セシメ無餘義モノト認メル分ニ限リ聽許候

義ト相心得可然哉

指令（二十七年十二月七日）

嗣子タル者壯年ニ至ルモ尚ホ實子ナキ時該家繼承ノ爲メ養子ヲ爲スモノニ限リ聽許スヘキ義ト心得ヘシ

德島縣問合（二十七年十二月六日）

戶籍上ニ唱フル所則九年第五十八號公達等ノ寡婦トハ先夫ノ死別シタルモノ而已ニ對スル名稱ニ候ヤ將タ先夫ノ離緣者ニ對シテモ亦寡婦ト稱スヘキヤ一般ノ定義モ有之候ハヽ御示シ相成度此段及御問合候也

民刑局長回答（二十七年十二月二十日）

右ハ場合ニ依リ區別可有之モ通例後段御見解ノ通ト思考ス

人事判例集

第九號目次

（明治三十二年分）

一 民法施行法第六十七條ノ解釋……一〇三
養子縁組ニ關スル民法第百二十六條ノ適用

民法施行法第六十七條ハ民法ニ因リ養子縁組取消ノ原因トナルヘキ事實ニシテ民法施行以前ニ於テモ取消ノ原因トナリシモノニ限リ其取消ノ請求ヲ爲スコトヲ許ス法意ナリ

養子縁組モ亦一ノ法律行爲ナルヲ以テ其取消權ハ民法第百二十六條ニ規定シタル時效ニ因リテ消滅スヘシ

（明治三十二年十月三日第一民事部判決）

右當事間ノ養子縁組取消及養子縁組請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十二年四月二十五日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告論旨第一點ハ原判決ハ重要ナル爭點ニ關シ判斷ヲ遺脫シ且ツ法則ヲ不當ニ適用シタル違法アリ明治六年十一月十三日太政官指令ニ曰ク嫡子嫡孫アリテ家督相續人ニ差支ナキ者勝手ヲ以テ親族又ハ他人ヨリ二三男又ハ弟又ハ姉妹等ニ貰受クルハ不苦モ兄姉ノ稱呼ヲ以テ貰受クルコトヲ許サス明治六年十一月十五日同指令ニ曰ク華士族平民トモ嗣子アルモノト雖モ猶又他ノ子弟ヲ貰受ケ二三男トス爲スコト不苦明治六年十一月十七日同指令ニ曰ク既ニ嗣子ヲ養候後猶又他人ノ子弟ヲ貰受ケ二三男トシテ養育スルハ人民ノ自由ニ任ス明治六年十一月同指令ニ曰ク嫡子嫡孫之レ有ルモノ勝手ヲ以テ他ヨリ弟姉妹等ニ貰受不苦明治七年七月二十二日同指令ニ曰ク男子ヲ以テ相續人トシ其二三女ヘ聟養子ヲ爲ス儀ハ親屬熟議願出レハ聞屆不苦以上記載スル所ニヨリテ之レヲ案スルトキハ被上告人カ上告人ノ養子トナリタル當時卽チ明治七年九月三十日頃ニ於テハ前揭太政官指令其他ノ成則ノ現存スルモノアリテ推定ノ家督相續人アル者ハ嗣子又ハ長男トシテ養子ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ本則トシ唯タ嗣子トセス若クハ二三男トシテ他人ヲ養フ事ヲ得タルノミ故ニ本件被上告人カ上告人ノ養子トナリタル事實ニシテ相續ヲ目的トセス單ニ女聟トナリタルモノナルトキハ原判決ノ如ク「法定ノ推定家督相續人タル男子アル場合ニ於テモ男子ヲ養子ト爲スハ敢テ妨ケナキ所ナレトモ法定ノ推定家督相續人タル男子アルニ不拘男子ヲ養子ト爲スコトハ民法ノ施行以後ニ於テ初メテ法律ニ違反スルコトヽナルモノナリ」ト斷定スルコトヲ得可シト雖モ上告人カ第一審以來主張シタルカ如ク相續ノ爲メニ爲シタル養子ナリトセハ當時ノ法則ニ違背シタルモノニシテ原判決ノ如キ判定ハ決シテ之レヲ爲スコトヲ得サルモノナリ

二

之ヲ要スルニ被上告人ノ養子緣組ノ目的果シテ何レニ在リシヤハ本件重要ノ爭點ナルニ不拘原判決ハ之ヲ裁判スルコトナク漠然民法施行前ニアリテハ法定ノ推定家督相續人アルモ養子ヲ爲スコトヲ得タルカ故ニ上告人ノ請求ハ不當ナリト裁判シタルヲ以テ該判決ハ畢竟重要ナル爭點ニ關シ判斷ヲ遺脫シ且我邦當時ノ法則ヲ無視シタル違法アルモノト云ヒ其第二點ハ原判決ハ民法施行法第六十七條ノ規定ニ違背セリ被上告人カ上告人ノ養子ト爲リタル時上告人ニ平藏利吉ノ二男子アリシコトハ原判決ノ認ムル所ナリ果シテ然ラハ被上告人ヲ上告

人ノ養子ト爲シタル事實ハ民法施行法第六十七條ノ規定ヲ適用シタルコトヲ得サル理ナシ民法施行法第六十七條ニ曰ク民法施行前ニ生シタル事件カ民法ニ依リ婚姻又ハ養子取消ノ原因タルヘキ時ハ其婚姻又ハ養子縁組ハ之レヲ取消スコトヲ得但シ其事實カ既民法ニ定メタル期間ヲ經過シタルモノナルトキハ此ノ限リニ在ラスト依テ按スルニ被上告人カ上告人ニ法定ノ推定家督相續人タル平藏ノ在ルニ拘ハラス上告人ノ養子ト爲リタル事實ハ民法施行前ニ生シタル事實ニシテ此事實ヲ民法ニ照ラストキハ第八百三十九條ノ規定ニ違背セルヲ以テ同法第八百五十四條ニ依リテ縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ル原因タルコトハ一點ノ疑ナシ而シテ此取消ニ付テハ何等ノ期間モ定ムル所ナク且第百二十六條ノ規定ハ本件ノ場合ニ適用ナキヲ以テ戸主タル上告人カ本件事實ニ民法施行法第六十七條ノ規定ヲ適用シテ被上告人ノ縁組ノ取消ヲ請求シタルハ之レヲ正當ト云ハサルヘカラス原判決カ係爭ノ事實ハ施行前ノ法律ニ照シテ適法ナルヲ以テ施行法ヲ適用スヘキ限リニアラストシテ上告人ノ請求ヲ棄却シタルハ全ク法律ノ誤解ニ出テタルモノト信ス又原判決ハ法律ヲ適用セサル違法ノ判決ナリ民法第

八百三十九條ニ法定ノ推定家督相續人タル男子アルモノハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ス同第八百五十四條ニ第八百三十八條又ハ第八百三十九條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ各當事者其戸主又ハ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得トアリ民法施行法第六十七條ニ民法施行前ニ生シタル事實ノ民法ニ依リ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ノ原因タルヘキトキハ其婚姻又ハ養子縁組ハ之ヲ取消スコトヲ得但此事實カ已ニ民法ニ定メタル期間ヲ經過シタルモノナルトキハ此限ニ非ストアリ而シテ同條ニ所謂民法ニヨリ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ノ原因タルヘキ事實トハ民法第七百六十五條乃至第七百七十二條同第八百三十七條乃至第八百四十一條同第八百四十三條乃至第八百四十五條ノ事項ヲ指示シタルモノナルコト炳然トシテ毫モ疑ヲ容ルヽノ餘地ナシ今夫レ本件ノ事實如何ト云フニ上告人ハ明治七年ニ於テ已ニ法定ノ推定家督相續人タル長男平藏竝ニ之レニ卑屬親ナクシテ死亡等爲シタル場合ニハ其地位ニ代ルヘキ次男利吉ノ二男子アリシニ拘ラス庶嫡等ノ手續ヲ履踐セス勝手ニ被上告人ヲ上告人家ノ繼嗣トシテ養子縁組ヲ爲シ被上告人ヲ上告人ノ長男トシテ就籍ヲ了シタル事實ニシテ是レ明カニ民

法第八百三十九條ノ規定ニ違反シ同第八百五十四條ニ據リ取消ノ原因タルヘキ事實ノ存スルモノナルヲ以テ民法施行法第六十七條ヲ適用シ當然本緣組ハ之レヲ取消シ得ヘキモノナリ然シテ右第六十七條ニ於テハ民法施行前ニ生シタル事實カ其當時ノ法律ニ照ラシ適正ノ效力アリシ者ナリシト否トノ區別ヲ示スト雖モ其之ヲ示サヽリシハ決シテ偶然ノ故ニ非ス蓋シ立法者ハ吾國古來ノ習慣卽チ倫理ヲ尙ヒ家系ヲ重ンスル美風ノ漸ク將サニ頽壞セントシツヽアルヲ廢止シ族制ノ舊慣ヲ嚴正ニ保持センカ爲メ民法第八百三十八條同第八百三十九條等ノ如キ順序ニ背キ族制ノ秩序ニ反スル弊習ハ竟ニ之ヲ將來ニ禁遏スルノミナラス現存セル已往ノ事實ニ對テモ亦之ヲ矯正セシメ民法ノ施行ト共ニ右等不倫不秩序ノ行爲ヲ其根底ヨリ一掃シ世上斯ル事柄ノ再顯セサランコトヲ期セシモノナルヲ以テ前記ノ區別ヲ爲サヽリシモノナリ故ニ或ハ一私人ノ爲ニ不便不都合ノ生スル場合アルヘシト雖モ畢竟如此事項ハ事務ノ秩序ニ關スルニ依リ立法者ハ英斷ヲ以テ公益ノ爲メ利益ヲ犧牲タラシメタルニ過キサルハ要スルニ民法施行前ニ生シタル事實ニシテ民法ノ規定ニ照ラシ苟クモ取消ノ原因タルヘキ事實ナルニ於テハ右第六十七條ヲ適用シ民法ヲ遡及セシメ以テ其取消ヲ爲サシムルノ律定ナリト解スルハ成法ノ解釋上當然ノ解釋ナリト信ス若シ夫レ本件ノ如キ場合ニ第六十七條ヲ適用スルヲ得ストセハ該條ハ決シテ如何ナル場合ニ適用スヘキカ民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子緣組ノ無效ナル場合ニ付テハ民法施行法第六十五條ニ規定シ而シテ同條ニハ舊法ニテ有效ニシテ民法ノ規定ニヨレハ無效ナル場合ニ民法ヲ遡及セシムルヤ否ノ點ニ付明示セサル如キモ民法所定ノ無效條件ヲ一見スレハ個ハ言ハスモカナノコトナルニ是ニ由ル又婚姻又ハ緣組ノ成立後ニ生シタル事實ヲ原因トスルノ離婚又ハ離緣ニ付キ民法ヲ遡及セシムルコトニ關シテハ同法第七十條ニ明示セリ故ニ婚姻又ハ緣組ノ無效若クハ離婚緣ノ場合ニ第六十七條ヲ適用ス可ラサルハ固ヨリ論ナク從テ其適用全ク絕無ナルニ歸着スヘシ加之本件ノ如キ取消ノ場合ニ該條ヲ適用スヘカラサルモノトセハ他ニ取消原因ノ存スル場合ニ民法ヲ遡及セシムルノ法條ナキヲ以テ民法施行前ニ發生シタル無效又ハ離婚姻ノ事實アル場合ノミニ民法ヲ遡及セシメ獨リ其成立ニ瑕疵ヲ帶ヒタル婚姻又ハ緣組ノ取消原因アル場合ニハ民法ヲ遡及セシムル

ヲ得サル カ如キ不法理ノ結果ヲ生スルト同時ニ年長者ヲ貰ヒ受ケ子ト爲シ又ハ十五六歳ノ未成年者ハ養子ヲ貰ヒ或ハ正當ナル法定家督相續人タル實子ヲ故ナク追放シ勝手ニ他ヨリ養子ヲ貰ヒ或ハ祖父兄又ハ父等ヲ己ノ子ト爲シ居ル事實アルモ亦如何トモスル能ハス法律ハ之レヲ認許セサルヲ得サル カ如キ奇怪ナル現象ヲ見ルニ至リシ故ニ本件ノ如キ場合ニ在テハ第六十七條ヲ適用スヘキハ愈以テ明白タリ然ルニ原院ニ於テハ「民法施行前ニ於テ法定ノ推定家督相續人タル男子アル場合ニ於テモ男子ヲ養子ト爲スハ敢テ妨ナキ所ナレハ法定ノ家督相續人タル男子アルニ拘ハラス男子ヲ養子ト爲スコト敢テ妨ケナキ所ナレハ法定ノ家督相續人タル男子アルニ拘ハラス男子ヲ養子ト爲スハ敢テ妨ケナキ所ナレハ法定ノ家督相續人タル男子アルニ拘ハラス男子ヲ養子ト爲スコトハ民法施行以後ニ在テ初メテ法律ニ反スルコトヽナルモノナリ然レハ卽チ被控訴人(上告人)ノ平藏利吉ノ二子アルニ不拘控訴人(被上告人)ヲ養子ト爲シタル事實ハ民法施行法第六十七條ニ所謂養子緣組ノ取消スヘキ事實ト云フヲ得サレハ云々トノ說明ヲ下シ該條ノ本件ニ適用セサリシハ法律ヲ適用セサル不法ノ判決ナリ況ンヤ判

文ニハ民法施行前ニ於テハ法定推定家督相續人タル男子アル場合ニ於テモ男子ヲ養子ト爲スハ敢テ妨ケナキ所ナレハ云々トアルモ民法施行前ノ法律ニ於テハ實長男アル場合ニ他ヨリ其家ノ繼嗣トシテ子女ヲ貰ヒ受クルコトハ嚴禁セラレアリシコトハ第一點ニ摘示セシ該法令ニ依ルモ明カナレハ決シテ本件ノ如キハ其當時ノ法律ニ照スモ適法ノ緣組ナラサルコト明白ナルニ於テオヤト云フニ在リ依テ案スルニ新法ハ其施行前ニ於テ合法ニ成立シタル法律行爲ニ效力ヲ及ホス可キモノニアラサルハ法理上一般ノ原則ナルノミナラス民法施行法第一條ニモ規定スル所ナレハ民法施行法第六十七條ハ民法ニ依リ養子緣組ヲ取消ス原因ト爲ス可キ事實ナルトキハ假令其事實カ民法施行前ニ於テ緣組取消ノ原因トナラサリシモ之ヲ原因トシテ民法施行前ノ養子緣組ヲ取消スコトヲ得セシムル法意ニアラス民法ニ因リ取消ノ原因トナル可キ事實ニシテ民法施行前ニ於テモ取消ノ原因トシテ緣組取消ノ請求ヲ爲スコトヲ許スニ過キサル精神ナリトス而シテ民法施行前ニ在テハ推定ノ家督相續人タル男子アルモノハ極貧或ハ老病ナル場合ニ實子カ幼少ナルトキノ如キ特別ノ事情存在

シ實子ヲ廢嫡シタルニアラサレハ嗣子トシテ養子ヲ爲スコトヲ許ササルヲ以テ本則トシ唯タ嗣子トセス又ハ二三男トシテ他人ヲ養フ事ヲ得タルモノニシテ本件緣組ヲ爲シタル明治七年頃ニ於テモ異ルコトナシ然レハ本件ノ如キ推定家督相續人タル男子アルニモ不拘被上告人ヲ養子ト爲シタル場合ニ於テ其養子緣組ノ有效タルニハ特別ナル事情存シ實子廢嫡シタルカ又ハ嗣子トセサル目的ニテ養子ヲ爲シタル事實ナリシコトヲ要スルニ原院ハ民法施行前ニ在テハ法定ノ推定家督相續人タル男子アル場合ニ於テモ男子ヲ養子ト爲スハ敢テ妨ケナキモノナリト判示シ以テ養子緣組ノ目的如何ニ不拘養子ヲ爲スコトヲ得タルモノノ如ク裁判シタルハ失當ナリトス然レトモ上告人カ被上告人ヲ養子ト爲シタルハ嗣子ト爲ス目的ニアラサリシトキハ勿論特別ノ事情存シ實子ヲ廢嫡シ被上告人ヲ養嗣子ト爲シタル事實ナリシトキモ其當時ノ法則ニヨリ許ス所ノ養子緣組ナルヲ以テ假令其事實カ民法ニヨリ取消ノ原因トナルモ民法行施法第六十七條ニ依リ之ヲ原因トシテ養子緣組ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ス之レニ反シ實子ヲ合法ニ廢嫡セスシテ被上告人ヲ養嗣子ト爲シタル事實ナリシトキハ民法施行前ニ於テモ取消スコトヲ得ヘキ養子緣組ナルヲ以テ右法條ニヨリ之レカ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖モ同條ノ但書ニ此事實カ已ニ民法ニ定メタル期間ヲ經過シタルモノナルトキハ此限リニ在ラスト規定シ且民法第百二十六條ニ取消權ハ取消ス行爲ノ時ヨリ二十年經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス可ク規定シアリテ此規定タルヤ民法總則中ニ揭ケル所ノモノナレハ別段ノ定メナキ總テノ民法上法律行爲ニ適用ス可キ法則ニシテ養子緣組モ一ノ法律行爲ニ屬シ本件ノ場合ノ如キ緣組取消權消滅ノ時效ニ付キ特別ノ規定ナキヲ以テ養子緣組ニ付テモ同條ヲ適用ス可キハ論ヲ竢タサル所ナリトス而シテ本件養子緣組ノ明治七年ニ成立シタルコトニ付キ當事者間ニ爭ナキハ原判決事實ノ摘示ニヨリ明カナレハ本訴提起ノ時迄ヲ已ニ二十年經過シ上告人ハ最早取消權ヲ失ヒタルモノナリ右ノ如クナルヲ以テ何レニシテモ上告人ノ本件養子緣組取消ノ請求ハ失當ナルカ故ニ其請求ヲ却下シタル原判決ハ結局相當ノ裁判ナリトス

第三點ハ原判決ハ判斷ヲ遺脫シタルニ非サレハ裁判ニ理由ヲ付セサル違法アリ本件上告人ハ第一ニ緣組ノ取消ヲ求メ其請求ニシテ採用セラレサルトキハ離緣

ヲ請求スル旨ノ申立ヲ爲シタル者ナリ故ニ控訴院ニ於テ第一ノ縁組取消ノ請求ヲ却下シタル場合ニハ必ス第二ノ離縁ノ請求ニ付キ裁判ヲ爲ササルヘカラス然ルニ控訴院ハ單ニ被控訴人即チ上告人ノ請求ヲ棄却スト宣言シテ第一ノ請求ノミニ付理由ヲ付シ第二ノ請求ニ付テハ何等ノ說明モ爲シタル所ナシ故ニ原判決カ上告人ノ請求ヲ全部即チ二個ノ請求ヲ排斥シタルモノト解スルトキハ理由不備ノ違法アリ又第一ノ請求ノミヲ棄却シタルモノト解スルトキハ第二ノ請求ニ付テハ全ク判斷ヲ遺漏シタルモノト云ハサルヘカラスト云フニ在リ○然レトモ控訴ハ判決ニ對スル不服申立ノ方法ナルヲ以テ判決ヲ爲ササル場合ニハ其目的物存在セサルニ因リ控訴ヲ爲スコトヲ得ス而シテ第一審ニ於テハ養子ノ縁組取消ノ請求ノミニ付判決ヲ爲シ離縁ノ請求ニ付テハ裁判ヲ爲ス必要ナシトシテ判決ヲ爲ササリシモノナレハ本件控訴モ第一審ニ於テ判決シタル縁組取消ノ請求ノミニ關スルモノタラサルヲ得スシテ這ハ原判決事實ノ摘示中ニ揭クル控訴人（被上告人）ノ控訴申立即チ第一審判決全部ノ廢棄ヲ求メタルコトニ因リテモ自ラ明カナリ故ニ原院ハ縁組取消ノ請求ニ付キ審判スヘキ場合ニ在リタルヲ以テ此點ノミニ付判決ヲ爲シタルモノニシテ控訴ニ係ラサル離縁ノ請求ニ付テハ裁判ヲ爲シ得ル場合ニアラス然レハ離縁ノ請求ニ付キ裁判ヲ爲ササルコトヲ以テ不服申立ノ理由ト爲スハ失當ナリトス以上說明ノ如クナルヲ以テ本件上告ハ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス

外國婚姻令集

第九號目次

佛國民法人事編

第六卷　離婚

第二章

第一節　離婚ノ法式……五三

に頁數

第二百四十二條　夫婦ノ一方カ第一ノ命令ヲ受領シタル後ハ裁判官ヨリ得タル許可ニ基キ報告ヲ爲スノ責任ヲ以テ自己ノ權利保全ノ爲メ保存行爲ヲ爲スコトヲ得殊ニ其共通財產ニ封印スルコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ權利ハ夫ニ管理若クハ收益セラルル財產ノ保存ノ爲メ財產ヲ共通セサル婦ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

封印ハ夫婦中愼重ナル者ノ請求ニ因リ除去セラル但封印ヲ除去シタルトキハ其有體動產有價證券等ノ目錄ヲ調製シテ評價スヘシ他ニ保管人ヲ定メサルトキハ其財產ヲ占有セル一方ヲ以テ裁判上ノ保管人トス

第二百四十三條　第二百三十八條ニ規定シタル命令ノ日附以後ニ共通財產ノ負擔ニテ夫カ契約シタル總テノ義務及ヒ共通財產ニ附屬スル不動產ニ付キ夫カ爲シタル總テノ所有權ノ移轉ハ其婦ノ權利ヲ詐害シ又契約ヲ無效ナリト言渡スヘシ

第二百四十四條　離婚ノ訴權ハ其訴ヲ提起スヘキ事實ノ發生ノ後若クハ離婚ノ訴ノ提起後ニ爲シタル夫婦ノ和解ニ依リ消滅ス

何レノ場合ニ於テモ原告ハ其訴ニ付キ不受理ノ言渡ヲ受クヘシ但和解後ニ生シタル原因ノ爲メ更ニ新ナル訴ヲ起スコトヲ得此場合ニ於テ其新ナル訴ノ憑據トシテ以前ノ原因ヲ援用スルコトヲ得

又離婚ノ訴權ハ其裁判ヲ身分登記簿ニ登記シテ確定スル以前ニ於ケル夫婦ノ一方ノ死亡ニ因リ消滅スヘシ

第二百四十五條　證人訊問ノ必要アルトキハ民事訴訟法第二百五十二條以下ノ規定ニ從ヒ之レヲ行フ

臯屬親以外ノ親族及ヒ夫婦ノ僕嫗ハ證人トシテ訊問スルコトヲ得

第二百四十六條　離婚ノ請求カ第二百三十二條ニ規定セラレタル原因ト全ク異ナリタル原因ニ因リ提起セラレ且充分疏明セラレタルトキト雖モ裁判所ハ直ニ離婚ノ言渡ヲ爲サヽルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ六箇月ヲ經過セサル期間內ニ於テ別居及ヒ假處分ヲ持續シ若クハ之レヲ命スルコトヲ得

裁判所ニ定メタル期間後尙ホ夫婦和解セサルトキハ夫婦ノ一方ハ離婚ノ裁判言渡ヲ受ケシムル爲メ法定ノ期間內ニ他ノ一方ヲ裁判所ニ召喚セシムルコトヲ得

第二百四十七條　被告ニ召喚狀ヲ交付セサルトキ又ハ被告カ缺席シタルトキ裁判所ハ本案ノ裁判宣告前被告ニ對シテ提起セラレタル請求ノ目的ヲ知ラシムル爲メ新聞ニ揭載スヘキコトヲ命スルコトヲ得缺席ニテ言渡シタル離婚ノ判決ハ執達吏ヲシテ送達セシムヘシ

前項ノ送達ヲ直接ニ相手方ニ爲サヽリシトキハ裁判長ハ簡單ナル請求ニ因リ自ラ指定シタル新聞ニ判決ノ要旨ヲ揭載スヘキコトヲ命ス

故障ハ送達ヲ直接ニ相手方ニ爲サヽリシトキハ其送達ノ日ヨリ一箇月ノ期間內ニ之ヲ爲スヘク若シ然ラサルトキハ新聞ヲ以テセル最終ノ公告ノ日ヨリ八箇月內ニ之レヲ爲スヘシ

第二百四十八條　控訴ハ對席判決ニ對シテハ民事訴訟法第四百四十三條以下ニ規定シタル期間內ニ提起スヘシ

判決カ缺席判決ナルトキハ控訴期間ハ故障期間經過後ニアラサレハ進行セス

控訴ハ通常ノ法廷ニ於テ緊急ノ事件トシテ審理ス
反訴ハ新ナル請求ト看做ササルカ故ニ控訴審ニ於テ之ヲ提出スルコトヲ得
大審院ニ上告スル期間ハ對席判決ニ對シテハ送達ノ日ヨリ缺席判決ニ對シテハ故障期間經過ノ日ヨリ進行ス
上告ハ離婚又ハ別居ノ事項ヲ停止ス

第二百四十九條　離婚ノ判決ノ言渡アリタルトキ當事者ハ協諧スルコトヲ得ス
第二百五十條　離婚ノ判決ノ要旨ハ代書人及ヒ公證人役場及民事裁判所竝ニ商事裁判所法廷内ノ掲示板ニ掲示スヘシ
前項ノ判決ノ要旨ハ裁判所々在地ノ新聞ノ一ニ掲載スヘシ但其地ニ新聞ナキトキハ縣内ノ一新聞ニ掲載スヘシ

第二百五十一條　判決ノ要旨ハ婚姻擧行地ノ身分登記簿ニ登記スヘシ
前項ノ登記ハ民法第四十九條ノ規定ニ從ヒ婚姻證書ノ欄外ニ記載スヘシ
婚姻カ外國ニ於テ擧行セラレタル場合ニ於テハ前項ノ登記ハ夫婦ノ最後ノ住居地ノ身分登記簿ニ之ヲ爲スヘシ但其婚姻カ外國ニ於テ登記セラレタルモノ

戸籍法令大全

第九號目次

第一條乃至第四條ニ關係アル法令

一　市制……五三

二　町村制……五三

東京京都大阪及人口二十萬以上ノ市ニ於テハ前條ニ依リ區ニ附屬員竝使丁ヲ置クコトヲ得

東京市、京都市、大阪市及人口二十萬以上ノ市ハ市會ノ議決ニ依リ區ニ區收入役ヲ置クコトヲ得（三十一年法律第二十號ヲ以テ本項追加）

前項區收入役ハ區附屬員中ニ就キ市參事會之ヲ命ス（同上）

第六十一條　市ハ市會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

委員ハ市參事會又ハ市會議員ヲ以テ之ニ充テ又ハ市參事會員及市會議員ニ於テ之ヲ選擧スル者ヨリ選

第六十五條　町村ハ町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ選

ヲ以テ之ヲ組織シ又ハ會員議員ト市公民中選擧權ヲ有スル者トヲ以テ之ヲ組織シ市參事會員一名ヲ以テ委員長トス

委員中市會議員ヨリ出ツル者ハ市會之ヲ選擧シ選擧權ヲ有スル公民ヨリ出ツル者ハ市參事會之ヲ選擧シ其他ノ委員ハ市長之ヲ選任ス

常設委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十二條　區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外市會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十三條　市吏員ハ任期滿限ノ後再選セラルルコトヲ得

市吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得

第二款　市參事會及市吏員ノ職務權限及處務規程

第六十四條　市參事會ハ其市ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

市參事會ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　市會ノ議事ヲ準備シ其議決ヲ執行スル事若シ市會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利

擧シ町村長又ハ其委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ委員長トス

常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條　區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外町村會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十七條　町村吏員ハ任期滿限ノ後再選セラルルコトヲ得

町村吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得

第二款　町村吏員ノ職務權限

第六十八條　町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公

益ヲ害スト認ムルトキハ市參事會ハ自己ノ意見ニ由リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二　市ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事

三　市ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算

衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ議決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二　町村ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事

三　町村ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算

其他市會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ合計及出納ヲ監視スル事

四　市ノ權利ヲ保護シ市有財產ヲ管理スル事

五　市吏員及使丁ヲ監督シ市長ヲ除クノ外其他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

六　市ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七　外部ニ對シテ市ヲ代表シ市ノ名義ヲ以テ其訴訟竝和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事

表其他町村會ノ議決ニ依リ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四　町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財產ヲ管理スル事

五　町村吏員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

六　町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七　外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟竝和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事

八　法律勅令ニ依リ又ハ市會ノ議決ニ從テ使用料、手數料、市稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九　其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ市參事會ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十五條　市參事會ハ議長又ハ其代理者及名譽職會員定員三分ノ一以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事錄ニ登記ス可シ

八　法律勅令ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料、手數料、町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九　其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

市參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ市長ハ自己ノ意見ニ由リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ府縣參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十六條　第四十三條ノ規定ハ市參事會ニモ亦之ヲ適用ス但同條ノ規定ニ從ヒ市參事會正當ノ會議ヲ開クコトヲ得サルトキハ市會之ニ代テ議決

スルモノトス

第六十七條　市長ハ市政一切ノ事務ヲ指揮監督シ處務ノ澁滯ナキコトヲ務ムヘシ

市長ハ市參事會ヲ召集シ之カ議長トナル市長故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ

市長ハ市參事會ノ議事ヲ準備シ其ノ議決ヲ執行シ市參事會ノ名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲シ及之ニ署名ス

第六十八條　急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會ヲ召集スル暇ナキトキハ市長ハ市參事會ノ事務ヲ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ其處分ヲ報告スヘシ

第六十九條　市參事會員ハ市長ノ職務ヲ補助シ市長故障アルトキ之ヲ代理ス

市長ハ市會ノ同意ヲ得テ市參事會員ヲシテ市行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ名譽職會員ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得

市條例ヲ以テ助役及名譽職會員ノ特別ナル職務竝市長代理ノ順序ヲ規定スヘシ若シ條例ノ規定ナキトキハ府縣知事ノ定ムル所ニ從ヒ上席者之ヲ代理スヘシ

第七十條　町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理スヘシ

第七十條　市收入役ハ市ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十一條　書記ハ市長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十二條　區長及其代理者（第六十條）ハ市參事會ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區內ニ關スル市行政事務ヲ補助執行スルモノトス

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ區長ハ市長市參事會又ハ市收入役ノ指揮命令ヲ受ケ若クハ委任ニ依リ市ノ公共事務及法律命令ヲ以テ市ニ屬シタル事務ニシテ區內ニ關スルモノヲ管掌

第七十一條　町村收入收ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十二條　書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十三條　區長及其代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區內ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス

◉改正刑法ニ付キ新著書紹介ノ廣告

司法大臣　松田正久閣下題字
司法次官　河村譲三郎閣下題辭
大審院部長　法學博士　富谷鉎太郎閣下序
内務省警保局長　法學博士　古賀廉造閣下序
司法省民刑局長　平沼騏一郎閣下序
司法省參事官　谷田三郎先生校閲
日本法令審査會主事　宍戸深藏著

新刑法實用

（三版）

菊版四百八頁　總クロース極上製

定價　金壹圓五拾錢　送費金拾錢三部以上送費不要

本書ハ逐條講義トシ各頁ヲ二段ニ區別シ上欄ニ舊刑法ヲ掲ケ、中欄ニ新刑法、下欄ニ改正ノ理由ト說明トヲ詳述ス

本書ハ未タ江湖ニ顯ハレザル材料ニ依リテ編纂著述シタルモノナリ

申込所　東京市神田區今川小路三丁目六番地　明倫館

明治三十九年十一月十九日第三種郵便物認可　（毎月一回十五日發行）

○教育家諸彦へ緊急廣告○

文部大臣秘書官
文部省參事官　法學士　赤司鷹一郎先生校閲

日本法令審査會主事　宍戸深藏著

通俗教育　刑法上の修身訓

菊版總クロース上製
百五十頁
定價金七拾錢
三部以上金五拾錢
送費壹部金八錢

本書は言文一致體を用ひ刑法に如何なる修身觀念を包含し居るやを一見明白ならしむ教育に從事せらるゝ方々は勿論國民の指導の重任を負はるゝ市町村長諸彦には一日も缺くべからざる寶書なり

申込所　東京市神田區今川小路三丁目六番地　明倫館

川第三八二號

明治三十九年十二月十九日第三種郵便物認可
明治四十年九月十五日發行（毎月一回十五日）

石籍叢書

第十號

石籍學會

○戸籍叢書内容一覧

戸籍法實用

ハ戸籍、親族、相續ニ關スル通牒其他ノ實例新例等ヲ根據トシ常ニ前月マデノ新例ヲ類集シテ戸籍事務取扱方ヲ詳述シタルモノナリ

舊慣例集

ハ民法施行前ノ舊慣例ヲ施行當時ヨリ遡ホリテ編年的ニ類集シタルモノナリ

○明治四十年春季ノ全國地方裁判所長會同ノ際上京員諸君ノ御希望ニ因リ自今舊慣例集ノ頁數ヲ增加スルコトトセリ

人事判例集

ハ民法施行後ノ大審院判決ヲ編年的ニ類集シタルモノナリ

外國婚姻令集

ハ英米獨佛其他外國ノ法令中婚姻ニ關スルモノヲ摘譯シテ類集シタルモノナリ

戸籍法令大全

ハ戸籍法ニ關係アル諸法令ヲ戸籍法ノ規定順序ニ類集編纂シタルモノナリ

戸籍法實用

○戸籍法實用ハ著者ノ私見ニアラス正確ナル實例ニ依リテ編纂著述シタルモノナルヲ以テ各條ノ下說明少ナキ箇所アルハ卽チ未タ其筋ニ於テ問題ト爲リタルコトナキヲ示ス故ニ讀者ハ問題少ナキ箇條ニ就キ十分研究ノ上新ナル省議ヲ誘發セラレンコトヲ望ム

○戸籍法實用ハ新例ヲ生スル毎ニ取リ集メ修正スルノ必要アルヘキヲ認見シタルカ故ニ條毎ニ別葉トセリ（然ラサレハ一ケ條中修正ヲ加フル必要アル爲メ他ノ頁ヲモ改版スルニ至ルヘケレハナリ）

第十號目次

第三十八條……一五一
第三十九條……一六一
第四十條……一六五
第四十一條……一六九

第三十八條　前條ノ書類ハ一个月毎ニ遲滯ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付シ監督區裁判所ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス

書類ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

本條ハ屆書類ヲ送付シ之ヲ保存スヘキコトヲ規定シタルモノナリ

一送付手續

(一)本條ノ一ケ月トハ曆ニ依ル一ケ月分ヲ云フ戸籍法施行ノ際ノ分ニ付テハ三十一年七月十六日ヨリ同月三十一日迄ノ分ヲ纏メテ送付スヘキモノトス

一ケ月毎ニ纏ムヘキ書類ハ前月中ニ受付ケタル分ヲ謂フニアラスシテ前月中ニ登記シタル分ヲ纏メテ送付スヘキモノトス

(二)組合村ノ屆書類ヲ送付スルニハ村毎ニ別括ト爲スヲ相當トス

送付中書類カ紛失シタルトキハ其儘ニ差置ク外ナシ

二送付スヘキ書類ト否ラサル書類

(一)身分登記ニ關係ナキモノハ送付スルニ及ハス

(二)乙村戸籍吏カ甲村戸籍吏ヨリ返付セラレタル届書類ハ通常ノ手續ニ依リ區裁判所ニ送付スヘシ

第三十三條第二項ニ依リ舊管轄ノ戸籍吏カ新管轄ノ戸籍吏ヨリ送付ヲ受ケタル届書ト雖トモ區裁判所ニ之ヲ送付スヘシ

本條ニ依ル送付ハ離婚離緣ノ場合ニ於テ實家ニ入籍ノ手續ヲ爲シ其入籍通知ヲ受ケサル前ト雖モ之ヲ爲スヲ妨ケス

本籍不明ノ故ヲ以テ返戻セラレタル届書ハ送付スルニ及ハス其儘役場ニ留置クヘシ又別段返戻ノ報告書ヲ區裁判所ヘ送付スルニ及ハス

戸籍法施行前ノ戸籍記載事項ヲ變更スル申請書類ハ明治三十五年司法省令第二十一號第四條ニ依リ保存スヘキモノトス

(三)婚姻證書ヲ差出スヘキ場合ニ於テ其證書ノ外ニ届書ヲ差出シタルトキハ證書ノミヲ區裁判所ニ送付シ婚姻届書ハ役場ニ保存スヘシ

(四)届書ノ添付書類即チ診斷書、裁判ノ謄本、戸籍ノ謄抄本、第五十八條ノ代理人ノ委任狀、送付書ヲモ届書ト共ニ管轄區裁判所ヘ送付スヘキモノナリ

送付書ハ届書ト共ニ裁判所ヘ送付スヘシ

(五)届書ヲ區裁判所ヘ送付スヘキ場合ニ於テ未タ入籍通知書到達セサルトキハ先ツ以テ届書ノミヲ送付シ後其到着ヲ俟テ追送スヘシ

第百八十九條ノ入籍通知書ハ區裁判所ニ送付スヘシ但戸籍ニ關スル届書ニ係ル分ハ此限ニアラス

(六)既決犯罪事件ノ通知ハ戸籍役場ニ保存スヘク監督裁判所ニ送付セサルヲ相當トス

三戸籍法施行前ノ書類

(一)明治二十年五月一日ノ戸籍改製ニシテ其ノ副本並ニ同日以後戸籍異動ニ係ルモノヲ監督區裁判所ヘ送付シ置キタル場合ニハ改製以前ニ係ル分ハ何等必要ナキカ故ニ改製以後ヨリ戸籍法實施迄ノ分ノミヲ送付スヘシ

戸籍法施行前ノ戸籍ニ關スル届書ハ戸籍法施行後戸籍ノ正本カ抹消セラレタル場合ニ限リ之ヲ廢毀スルコトヲ得

戸籍法施行前ニ於テ既ニ抹消又ハ改製セラレタル戸籍ニ關スル届書類ハ現在ノ戸籍カ戸籍法施行後抹消セラレ又ハ改製セラレ(戸籍法第二百二十一條第一項ニ依リ)スト雖トモ廢毀ノ認可ヲ與フヘキヤ勿論ナリ

(二)除籍目錄、加籍目錄ハ役場ニ於テ保存スヘシ

(三)戸籍法施行前ニ於ケル送籍狀ハ明治十九年內務省令第二十二號戸籍取扱手續第十五條及ヒ同第十六條以下ノ規定ニ依レハ之ヲ町村役場ニ保存スヘキモノナルカ如キモ當時其取扱方一定セサリシカ爲メ或ハ郡役所ニ保存セルアリ或ハ役場ニ保存セル所アリシカ故ニ新戸籍法施行ノ際明治三十一年內務省訓令第十七號ニ依リ郡役所ニ保存セル戸籍ニ關スル諸綴ヲ區裁判所ニ引繼ニ當リテモ該諸綴中ニ送籍狀ヲ包含セルモアリ否ラサルモアリ然ルニ戸籍法施行前ノ屆書ト之カ附屬書類タル送籍狀ト其保存ノ場所ヲ異ニスル如キハ不都合ニシテ萬一戸籍簿ノ火災紛失等ノ爲メ裁判所ニ納メアル戸籍簿副本幷ニ異動書類ニ依リ再ヒ戸籍簿ヲ調製スル場合又ハ其他ニ付調査ヲ要スルトキハ右ノ送籍狀ナクンハ到底正確ナル調査ヲ遂ケ難キカ故ニ役場ニ於テ戸籍法施行前ノ送籍狀ヲ保存スルニ於テハ其送籍狀ヲ遲滯ナク監督區裁判所ニ送付スヘク區裁判所ハ明治三十五年司法省令第二十一號身分登記、戸籍及ヒ寄留ニ關スル書類保存規程第十條ニ依リ之ヲ保存スヘシ

明治十九年戸籍取扱手續ニ依リ戸籍ヲ全部改製シ其副本カ地方裁判所ニ保存シアルニ於テハ其改製前ノ送籍狀ハ之ヲ區裁判所ニ送付スルニ及ハス役場ニ於テ之ヲ廢毀シ差支ナシ

送籍狀ハ明治十九年十月內務省令第二十二號戸籍法取扱手續第十六條ニ依リ作成セシモノニシテ止マラス明治四年四月四日布告戸籍法第九則第十則ニ基キ明治五年五月大政官第四號達戸籍法中必得方第五號ニ依リ戸長ヘ副連印ノ證及ヒ戸籍法第十一則ニ依ル甲區戸長ノ送籍ヲモ包含ス

(四)送籍狀ニ關聯セル入籍通知書又ハ入籍報知書ノ如キハ送付ニ及ハス戸籍役場ニ於テ之ヲ廢毀シ差支ナシ

(五)送籍狀ニ對スル受籍書ハ送付スルニ及ハス戸籍役場ニ於テ

(六)戸籍法施行前ノ加籍券ハ監督區裁判所ニ送付スルニ及ハス

之ヲ廢毀シ差支ナシ

四裁判所ニ於ケル屆書類ノ取扱方

屆書ノミノ送付アリ後ニ至リ入籍通知書ヲ追送アリタルトキハ區裁判所ハ之ヲ前ノ屆書ニ添附シ置クヘシ

屆書カ紛失シタルトキハ監督區裁判所ハ戸籍吏ニ相當ノ注意ヲ加ヘ尚ホ身分登記簿ニ就キ屆書ノ紛失シタル部分ノ登記事件ノ數其種類、被登記者ノ氏名等ヲ調査シ之ニ以上ノ登記ニ關スル屆書ハ何年何月何日ヨリ何月何日迄ノ間ニ郵送シ又ハ戸籍役場ニ於テ紛失シタル旨ヲ記載シタル取調書ヲ徵シ其保存セル屆書中適宜ノ場所ニ編綴シ置ク等屆書ノ紛失シタルコトヲ表示スルニ必要ナル手續ヲ爲シ置クヘシ

戸籍ノ加除書類及ヒ戸籍吏ヨリ送付シタル身分登記書類ノ謄本抄本ハ之ヲ交付スルコトヲ得ス

裁判所ニ保存セル戸籍身分ニ關スル書類ヲ他ノ裁判所ヨリ民刑事件ノ證據トシテ請求シ來ルトキハ本書ヲ送リテ差支ナシ

五書類ノ保存ニ關シタル注意

書類ノ保存ニ付テハ明治三十五年七月二十四日司法省令第二十一號ヲ以テ身分登記、戸籍及ヒ寄留ニ關スル書類保存規程ノ發布アリ舊民刑第七二四號ヲ以テ注意事項ノ配布アリタルモ尚ホ左ニ注意スヘキ點ヲ揭ク

(一)身分又ハ戸籍ニ關スル屆書、入籍通知書等保存ヲ要スル書類ニハ複寫版若クハ蒟蒻版ヲ以テ謄寫シタル書面ヲ用ユルコトヲ得ス

(二)保存規程ハ所定ノ期間經過ノ後直チニ廢棄セサルヘカラサルノ趣旨ニアラサルカ故ニ保管ニ差支ナキ限リハ戸籍法第二百二十一條ニ依リ戸籍カ改製セラルヽマテ之ヲ保存スルモ妨ナシ

(三)保存規程第七條ノ廢毀書類目錄ハ單ニ其書類綴込帳ノ名稱冊數ノミヲ記スルヲ以テ足ルヘク毎件ニ付作成スルニ及ハス

(四)同規程第十條ノ抹消トアルハ戸籍ノ全部ヲ抹消セラレタル場合ノミニ適用ヲ受クルモノナリ

保存規程第十條ノ屆書ハ明治三十二年司法省訓令第三號ニ依リ郡役所等ヨ

リ引繼ヲ受ケタル届書ノミヲ云フモノニシテ戸籍法施行後ニ受ケタル届書ハ一切之ヲ包含セス

第十條ニ依リ廢棄スヘキ書類ハ戸籍法施行前ニ編製シタル戸籍カ抹消セラレタルトキ其抹消セラレタル戸籍ノ編製原因タル届書(即チ家督相續届、分家届、轉籍届等)其抹消原因タル届書(即チ廢絶家届、轉籍届等但現戸主ノ家督相續届ノ如キ舊戸籍ノ抹消原因タルト同時ニ新戸籍ノ編製原因タルモノヲ包含セサルコトハ勿論ナリ)其他新戸籍ニ移記セラレタル出生届ハ勿論家族ニ對スル戸籍ノ加除ニ係ル總テノ届書ヲモ廢棄スヘシ

(五)身分登記簿副本納付ノ際戸籍法取扱手續第九條ニ依リ添付スル目錄ハ明治十八年司法省丁第二十一號書類保存規程第十一條前段ニ準シ二ケ年間保存スヘシ

(六)書類保存規程ニ規定セル以外ノ帳簿及ヒ書類ノ保存期間ハ隨意各地方裁判所ニ於テ定メラルヘシ但身分登記、戸籍及ヒ寄留ニ關セサル帳簿書類竝ニ既決犯罪事件通知書ニ付テハ裁判所ニ於テ其保存期間ヲ定ムヘキモノニアラス

保存規程ニ規定セル以外ノ帳簿及ヒ書類ニ付テハ別ニ保存期間ヲ定メス戸籍役場ニ於テ適宜處分セシメラルヽ趣旨ナリ但既決犯罪事件通知書ハ市町村役場ノ書類ノ保存ニ關スル規程ニ依ラシムル筈ナリ

第三十九條　戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ登記ヲ爲スト同一ノ手續ニ依リ遲滯ナク全文ヲ登記簿ノ副本ニ謄寫スルコトヲ要ス

登記簿ノ副本ヲ地方裁判所ニ送付シタル後欄外登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ戸籍吏ハ遲滯ナク其登記ノ謄本ヲ作リ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ之ヲ地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

地方裁判所ハ前項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル登記ノ謄本ヲ登記簿ノ副本中相當登記ノ欄外ニ貼付シ職員ヲ以テ謄本ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ身分登記簿ノ副本ニ關スル取扱方ヲ規定シタルモノナリ

(一)副本ニ登記ヲ謄寫スル場合ニハ登記ヲ爲スト同一ノ手續ニ依ラサルヘカラス故ニ文末ニハ認印ヲ爲スヘク又登記終結文ヲモ正本同樣ニ記載シ戸籍吏職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スヘシ

(二)正副登記簿ノ內其一本ニハ一事件ヲ記載スルコトヲ得他ノ一本ハ記載スルコト能ハサルトキハ其一本ハ初メ作リシモノニ他ノ一本ハ後ニ作リシモノニ登記スヘシ

(三)登記簿ノ副本ニ登記漏アリタルトキハ副本中餘白ノ部分ニ登記シ脫漏シタル個所ノ欄外ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ

登記終結シタル身分登記簿副本中婚姻之部第五號登記全部、第六號ノ一部ニ該當スル部分、第二十號第二十一號登記ノ一部ニ該當スル部分ノ二葉破損シアルコトヲ地方裁判所ヘ納付ノ爲メ正本ト校合ヲ爲スニ際シ發見シタル場合ニ於テハ身分登記簿副本婚姻ノ部第五號第六號第二十號及第二十一號ノ登記全部ヲ身分登記簿ノ正本ニ依リ登記簿副本終結文ノ次ニ謄寫シ其欄外ニ登記ヲ爲シタル事由ヲ記載シ且ツ右第五號、第六號、第二十號及ヒ第二十一號ヲ登記スヘキ相當個所ノ欄外ニモ事由ヲ記載スヘシ

第四十條　登記ヲ爲シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ戸籍吏ハ遲滯ナク之ヲ届出人又ハ登記事件ノ本人ニ通知スルコトヲ要ス

本條ハ登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於ケル通知方ヲ規定シタルモノナリ

本條ニ依ル通知ノ結果第百六十七條以下ニ依リ身分登記變更ノ手續ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ詳細ハ同條ニ至リテ說明スヘク爰ニハ單ニ如何ナル場合ニ通知スヘキヤヲ說明スヘシ

(一)登記ノ錯誤ハ其事件當時ノ事實(申請ノ當時)ニ符合セシモノナラサルヘカラス現在ノ事實ニアラス

(二)戸籍吏カ届書ヲ受理シ登記ヲ爲シタル後ハ其届書ヲ訂正セシムルコトヲ得ス必ラス本條ノ通知ヲ爲シ身分登記變更ノ手續ヲ爲サシムヘキモノトス

届出人等數人アル事件ニ付テハ各人ニ通知スヘク其中ノ一人ニ通知スルヲ以テ足レリトセス

(三)届書ノ送付ヲ受ケタル戸籍吏ニ於テ其届書ニ錯誤又ハ遺漏アリタルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ原戸籍吏ニ返戻スヘク同戸籍吏ハ本條ノ通知ヲ爲スヘク若シ届出人所在不明ナルトキ又ハ變更ノ申請ヲ爲サヽルトキハ其旨ヲ以テ届書ヲ再送スヘク再送ヲ受ケタル戸籍吏ノ管内ニ本籍ヲ有セサルモノナルトヲ爲スヘシ但シ送付ヲ受ケタル戸籍吏ノ管内ニ本籍ヲ有セサルモノナルトキハ此限ニアラス

(四)第一ニ受附ケタル戸籍役場ノ登記ノ外送付ヲ受ケタル第二ノ戸籍役場ニ於テモ同一ノ錯誤アル儘登記ヲ爲シタルトキハ第二ノ戸籍吏ヨリモ本條ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

送付ヲ受ケタル届書ニ誤謬アリタルカ爲メ登記ニ錯誤又ハ遺漏アルニ至リタルトキハ届書ノ送付ヲ受ケタル戸籍吏ヨリ本條ノ通知ヲ爲スヘシ

(五)登記ヲ脫漏シタルトキハ發見當時ノ登記簿ニ登記シ欄外ニ其ノ事由ヲ記載シ置クヘシ

登記簿ノ第四章第二節乃至二十節ノ部ヲ誤リテ登記シタルトキハ相當ノ部ヘ移記シ欄外ヘ事由ヲ附シ抹消スヘシ

第四十一條　戸籍吏ハ毎年末ニ於テ最終登記ノ次行ニ終結ノ旨ヲ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ最終登記ヲ爲ス前登記簿ノ用紙ヲ用ヰ盡シタル場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ毎年末又ハ用紙ヲ用ヒ盡シタル身分登記簿ニ終結文ヲ記載スヘキコトヲ規定シタルモノナリ

(一)假令年末休暇中ナリト雖モ三十一日迄ニ届出アリタル事件ハ其年ノ身分登記簿ニ登記スヘク隨テ三十一日迄終結文ヲ記載セス同日ニ至リ同日付ヲ以テ終結文ヲ記載スヘキモノトス

(二)或ル身分登記簿ニシテ一ケ年間全ク登記ヲ爲サヽリシ登記簿ノ終結文ハ「本年中登記事件ナシ」ト記載シテ戸籍吏ニ署名捺印スルヲ相當トスヘク「年月日

登記終結」ト記載スルハ穩當ナラズ

(二)兩登記簿ニ渉リ一事件ノ登記ヲ爲シタルトキハ其儘ニ差置ク外ナキモ先ツ一事件ノ登記カ兩登記簿ニ跨ルヘキトキハ後ノ帳簿ニ登記スヘシ此場合終結文ハ用紙ヲ用ヒ盡シタル登記簿ノ用紙ニ不足ヲ生シ更ニ帳簿ヲ作リシ場合其初メ作リシ登記簿用紙ニ一事件ヲ悉ク記載シ得ラレサル僅少ノ行數ヲ存スルトキハ其行數ヲ空行トシ次ノ帳簿ニ登記スヘシ

(三)町村ノ分合アリタル場合ニ於テハ廢止サレタル町村戸籍役場身分登記簿ハ該村廢止ノ日ヲ以テ某村廢止ニ付登記終結ノ旨ヲ記載シ戸籍吏署名捺印シテ之ヲ閉鎖スヘシ

舊慣例集

第十號目次

（明治二十六年分）

ろ頁數

一 平民ノ家督相續人廢嫡……一七三
二 亡弟ノ遺妻ト兄トノ婚姻……一七三
三 入夫ト女戸主ノ親族トノ間ニ於ケル呼稱……一七四
四 養嗣子ノ長男ト其後ノ養子トノ間ニ於ケル相續權……一七四
五 廢家ノ上實家復籍……一七五
六 再相續者ノ二男ト隱居シタル長男トノ間ニ於ケル相續權……一七五
七 胎兒ト女子トノ間ニ於ケル相續權……一七六
八 入夫ノ離婚……一七六
九 失踪中ニ於ケル失踪者ノ子ノ相續權……一七七
十 夫精神病中妻ノ離婚……一七七
十一 妻ト實弟トノ間ニ於ケル相續權……一七八
十二 相續ノ出願ノ要否……一七九
再相續ノ要件……一七九
十三 再婚ノ期間……一八〇
十四 軍人ノ違法結婚者ノ間ニ於ケル出生子……一八一
十五 亡弟ノ妻ノ養子緣組……一八二
十六 遺妻ト胎兒ト弟トノ間ニ於ケル相續權……一八二
十七 伯母ノ後見人資格……一八三
十八 前夫ノ子ト入夫ノ子トノ間ニ於ケル相續權……一八四
十九 兄弟姉妹間ノ婚姻……一八五
伯叔父姑甥姪間ノ婚姻……一八五
伯叔父母甥姪ノ前配偶者間ノ婚姻……一八六
前配偶者ノ兄弟姉妹間ノ婚姻……一八六
二十 絕家者ト再興者トノ續柄……一八六
絕家者ノ子女ト再興者トノ續柄……一八七
廿一 後見人ト被後見人トノ養子緣組……一八七
廿二 先妻ノ姉妹トノ婚姻……一八七
廿三 失踪ノ家族ヲ有スル養戸主ノ離緣……一八八
廿四 離緣後三百日以內ノ出生子……一八八
廿五 婚姻ニ因リ嫡出子ト爲リタル庶子ノ戸籍訂正方……一八九
廿六 婚姻ニ因リ嫡出子ト爲リタル庶子ノ相續權……一九〇
廿七 後見人ノ員數……一九〇
廿八 直系尊族ノ相續……一九一
傍系親族ノ相續……一九一
遺妻ノ相續……一九一
私生子ノ相續……一九二
廿九 外國ニ於ケル出生子ノ庶子引受……一九三
出生屆漏ノ私生子ノ母婚姻後入ルヘキ家……一九四
三十 失踪中ノ夫ノ妻ト弟トノ婚姻……一九四
卅一 父ノ離緣シタル養子女ト子ノ緣組……一九五

卅二　十五年以上ノ幼戸主ノ廢家……一九五
卅三　隱居シタル長男ノ相續權……一九六
卅四　戸籍ニ登記ナキ妻ノ入籍……一九七
卅五　嗣子タル女子ト男子トノ間ニ於ケル相續權……一九八
卅六　相續權ニ關シ指令變更ノ結果ニ對スル處分……一九八
卅七　失踪中ノ養女ト遺妻トノ間ニ於ケル相續權……一九九
卅八　他家ヨリ入リタル子ト其家ニ在ル子トノ間ニ於ケル相續權……二〇〇

長崎縣伺　（二十五年十二月二十八日）

華士族家督相續ノ義ニ付テハ明治六年第二十八號布告ノ旨モ有之總領男子ニ於テ不得止事故アルモノハ素ヨリ廢嫡聽屆可然存候得共他ニ事故アルモ非ラス長男ハ分家セシメニ三男ヲシテ相續セシムル地方ノ習慣アル趣ヲ以テ廢嫡出願スルモノハ聽許スヘキ哉ニ無之義ト相心得可然哉尚ホ平民家督相續ノ義ニ付明治八年五月廣島縣伺ニ對シ同年十月御省御指令ノ趣モ有之立嫡違法律廢滅ノ今日ニ在テハ據ルヘキ成規モ無之ニ付平民廢嫡ノ如キハ特許ヲ要セサル義ト相心得可然哉

指令　（二十六年一月十二日）

平民家督相續廢嫡等ノ義ハ華士族家督相續法ニ準據スヘキ義ト心得ヘシ

三重縣照會　（二十六年一月九日）

亡兄ノ遺妻其ノ弟ト結婚ノ義ニ付テハ明治十六年十二月二十日付内務大臣ヨリ訓令ノ次第モ有之然ルニ亡弟ノ遺妻其ノ兄ト結婚ノ義モ右訓令ニ準シ取扱可然

哉

民刑局長回答（二十六年一月十三日）

右亡弟ノ遺妻ト結婚ノ如キ凡ソ倫理上ニ關スルモノハ亡兄遺妻ト結婚同樣事實ヲ具シテ御伺ノ上許可相成ヘキ義ニ有之候

石川縣伺（二十六年一月十二日）

女戸主ニ入夫ヲ迎ヘ該入夫家督相續ノ後ハ妻ノ父母存亡ニ拘ラス養ノ字ヲ用ユルハ曾テ御指令モ有之候得共妻ノ姉妹ニハ養ノ字ヲ用ヰサル義ナルヤ

指令（二十六年一月二十日）

妻子ヲ除キ他ノ家族ニハ養ノ字ヲ附スヘキ義ト心得ヘシ

山形縣伺（二十六年一月二十四日）

實子ナキモノ二人ノ養子ヲ貰受ケ第一養子ヲ嗣子ト爲シタル後長男出生セリ然ルニ第一養子死亡シタル場合ニ於テ第二養子又ハ長男ヲ選定シ相續者トナスハ

差支無之ト存候處茲ニ相續ノ順位上ヨリ考フルトキハ第二ノ養子未タ嗣子ニ定メサル以前ナルヲ以テ長男ヲシテ相續セシメ不苦義ニ候ヤ

指令（二十六年二月一日）

養父又ハ親族協議ニ於テハ長男又ハ第二養子孰レニ相續セシムルモ苦シカラス

長崎縣照會（二十六年一月二十六日）

他家相續ノ者事故アリ實家ニ復歸センコトスル場合ニ於テハ跡相續者ヲ定メシムヘキ筈ニ有之候處茲ニ家族一人（亡養父ノ兄ニシテ數十年前失踪シ今猶ホ除籍年限以内ノモノ）ヲ有スル某戸主養家維持ニ堪ヘ難キ事故ヲ以テ實家ニ復歸センコトヲ出願スルモノアリ維持困難ノ爲メ復歸出願候程ノモノニ付跡相續者ヲ定メントスルモ到底相當ノ者ヲ得サル場合ニ於テハ無餘義事情ニ付相續者ヲ設ケスト雖モ復歸差許可然ヤ果シテ右差許可然義ニ候ハヽ養家ハ失踪者除籍迄無戸主ノ儘家名ヲ存スル義ト相心得可然ヤ

民刑局長回答（二十六年二月二日）

右ハ廢家ノ上家族ヲ携帶シテ實家ヘ復籍スルハ事情止ムヲ得サルモノニ限リ聽許相成可然義ト思考ス

德島縣伺（二十六年一月二十四日）

長男ニシテ一旦該家ノ戸主トナリ疾病又ハ其他ノ事故ニヨリ退隱シ父（母）再相續セルモノアリ然ルニ當主則チ再相續人ハ二三男ヲ有シ且再相續ノ後出生ノ男女子若クハ養子シタルモノ有之此場合ニ於テ該相續權ハ二男之ヲ有スル義ト相心得可然ヤ

指令（二十六年二月三日）

伺ノ通

佐賀縣伺（二十六年一月十九日）

戸主死亡ノ際男子ナキヲ以テ女子家督相續ノ後數月ヲ經テ亡父ノ遺胤（卽チ現戸主ノ實弟）分娩男子出生セリ右ハ當時胎内ニ在リシト雖モ其利益ヲ保護スル儀ニ付既ニ出生シタルモノト看做シ相續權ハ後生ノ男子ニ歸スヘキモノト心得可然ヤ

指令（二十六年二月三日）

女子家督相續ノ後出生シタル男子ハ當然相續權ヲ有セサルモノトス

福島縣照會（二十六年二月十八日）

夫生存中ハ如何ナル事情アルモ妻ヘ相續セシムル義ハ不相成筋ニ有之候處玆ニ單身女戸主ヘ入夫シテ戸主トナリ其後故アリテ離緣セントスルトキハ自然戸主ノ儘離緣セサルヲ得サル筋ニ相成候ニ付右等ノ場合ニ於テハ相續者ヲ定メスシテ一旦退隱ノ上直ニ離緣スルモ苦シカラサル筋ニ可有之ヤ

民刑局長回答（二十六年二月二十五日）

御意見ノ通ニテ差支ナキ義ト思考ス

福岡縣伺（內務省ヨリ協議）（二十六年二月九日）

玆ニ兄（甲）弟（乙）丙三人在籍ノ一家アリ其戸主タル兄（甲）ハ明治三年中失踪ニ付弟（乙）家名相續シ爾後退隱分家シ其跡ハ弟（丙）相續セリ然ルニ（丙）戸主ハ明治二十二年中

失踪(乙)分家者ハ明治二十四年中死亡ニ付當甲丙二人共失踪中ニシテ他ニ家族無之候處兄(甲)ニ一子アリシヲ曾テ妻離縁生家ヘ復籍ノ際携帯シ數年經過今日ニ於テ其一子ハ全戸失踪ノ生家戸籍ニ復シ失踪中ノ戸主ヲ退隠セシメ跡相續者ト爲サンコトヲ親族協議出願スルモノ有之右ハ已ニ全戸失踪ニシテ家族アラサリシモノナレハ單身戸主失踪中ニ等シク他ノ者ヲシテ相續方不相成義ト可相心得哉

將タ失踪後ニ復籍スト雖モ血統者タルノ故ヲ以テ失踪後十ケ月ヲ過キタルモノナレハ相續開屆可然筋ニ候哉

内務省
司法省指令（二十六年三月二日）

後段伺ノ通

青森縣照會（二十六年三月十一日）

妻妾（妾ハ刑法施行前入籍ノ者）ニシテ離婚ヲ請ハントスルモ夫顚狂病等ニ罹リ其意思ノ表明ヲ得ルコト能ハサルトキ雙方ノ親族熟議ノ上町村長ヘ届出候ハヽ其儘受理セシメ可然ヤ

民刑局長回答（二十六年三月十八日）

御見解ノ通ニテ差支ナキ義ト思考ス

熊本縣照會（二十六年三月十六日）

戸主死亡後嗣子無之妻及實弟有之候場合ニハ何レニ於テ遺跡相續致候順序ニ候ヤ

民刑局長回答（二十六年三月二十四日）

右ハ實弟ヲ相續人ト爲スヘキ義ト思考ス

茨城縣照會（二十六年四月四日）

姉夫伯叔父母又ハ母(寡婦)アルモ子女ナキ戸主退隠セントスルトキハ養子ヲ爲シ相續セシムルヲ以テ當然ノ順序ト被存候得共事故アリテ養子致シ難ク依テ姉夫伯叔父母又ハ母(寡婦)ヘ相續セシメントスル場合ニ於テハ至當ノ順序ニアラサルヲ以テ六年第二十八號布告第一章次男三男女子無之者ハ血統ノ者ヲ以テ相續願出ツ

ヘシトアルニ該當スルニ依リ出願ヲ要セシムル義ト被存候處二十四年十一月十七日三課第三二七號照會ニ對シ同年十二月司法省參民第一五一九號ヲ以テ出願ヲ要セサル旨御回答有之就テハ右布告ニ於テ出願ヲ要スルモノト否トノ區別了解致兼候間其區分御示有之度

伯叔父母又ハ母(寡婦)ニ於テ相續セントスルトキハ六年第二十八號第七章ニ依リ出願ヲ要セシムル義ト被存候處是又出願ヲ要セサル旨御回答ニ依レハ同章ハ婦女子相續ノ場合ニ限リ出願ヲ要シ伯叔母又ハ母(寡婦)ノ相續ハ等シク女戸主トナル場合ト雖モ出願ヲ要セサル義ニ候ヤ

民刑局長回答（二十六年四月十四日）

明治六年第二十八號布告相續法中從前出願ヲ要セシ事項ハ明治十二年第八號公達ヲ以テ單ニ戸長ニ届出ニ改正相成候義ニ有之候但戸主死亡シ男女子アルモ幼稚ナルヲ以テ成長迄父再相續スルトキ又男女子ナキ戸主死亡シ弟妹アルモ之ヲ擯キ戸主ノ父再相續スル場合等變例ニ屬スルモノハ仍ホ出願ヲ要スヘキ慣例ニ有之候

福井縣問合（二十六年四月十五日）

婦タル者夫死亡又ハ離緣ヲ受ケシ日ヨリ三百日ヲ過キサレハ再婚爲スヲ得ス然レトモ醫師ニ於テ遺胎ノ徵ナキ旨保證スル以上ハ素ヨリ該日限内ト雖モ再婚不苦旨曾テ御指令ノ次第モ有之然ルニ客年五月二十八日付三戸甲第四二五號伺ニ對シ同年六月三日參民第三六二號御指令ノ旨趣ニ依レハ假令遺胎ノ徵ナキ旨醫師ニ於テ保證スルモ六箇月以上ニ非サレハ再婚爲シ能ハサルモノヽ如シ然ルトキハ曾ニ亡兄遺妻ニ限ラス一般ニ夫死亡又ハ離緣ヲ受ケシ日ヨリ六箇月經過スルニ非サレハ遺胎ノ徵ナキ旨醫師ノ保證書ヲ添ヘ再婚届出ツルモ受理スヘキモノニ無之哉

民刑局長回答（二十六年四月二十一日）

御見解ノ通ニテ然ルヘキ義ト思考ス

三重縣照會（二十六年四月十四日）

豫備役及後備役中ノ者結婚セントスル時ハ陸軍武官結婚條例ニ依リ其筋ノ允可

ヲ得テ結婚スヘキハ勿論ノ處爰ニ數年以前許可ヲ得ス結婚シ今回子女分娩ニ際シ事發覺セシ者アリ然ルニ戸籍上ニ於テハ相當ノ手續ヲ經テ妻ニ入籍シタル者ニ付戸籍上ハ有效トシ其分娩セシ子女ハ嫡出子トナシ戸籍登載可然哉

民刑局長回答（二十六年四月二十一日）

右ハ御見解ノ通ニテ然ルヘキ義ト思考ス

內務省庶務局長照會（二十六年四月二十六日）

亡弟ノ妻タリシ者ヲ養女トシテ入籍セシムル件ニ付別紙之通埼玉縣ヨリ照會有之候處右ハ養女ト爲スコトヲ得ルヤ否御意見承知致度此段及照會候也

（別紙）埼玉縣照會（二十六年四月二十一日）

子女アル亡弟ノ遺妻ヲ離緣復籍セスシテ其儘養女トナシ聟養子ヲ貰受ケントスルモノアリ右ハ直ニ養女トナスコトハ相成ラサルモ一旦離緣復籍ノ上更ニ入籍セシムル義ハ差支ナキ哉

民刑局長回答（二十六年四月二十九日）

右ハ埼玉縣照會ノ通ニテ差支ナキ義ト思考ス

宮崎縣伺（二十六年四月二十二日）

妻ト實弟トノ有スル戸主死亡シ跡相續人選定ノ際遺妻ト實弟トノ間ニ於テ相續ヲ爭フ場合ニ於テハ實弟ヲ以テ相續セシムル方順序ニ可有之存候處若シ遺妻懷胎ナルトキハ胎內ノ子ハ生後正當相續ノ權利ヲ有スルモノニ付直ニ實弟ニ於テ相續スル義ハ不相成候ヤ

前項相續不相成モノトセハ出生迄ハ相續見合スヘキヤ果シテ然ラハ其間財產管理方等ニ於テハ親族ノ協議ニ任セ可然ヤ

指令（二十六年五月二日）

親族協議ニ任スヘシ但親族ニ於テ異議アルトキハ裁判所ノ處分ヲ仰カシムヘキモノトス

東京府伺（二十六年五月二十四日）

婦女ニシテ後見人トナルハ母祖母ニ限レル旨是迄内務大臣ヨリ夫々ヘ指令ノ例モ有之候處茲ニ幼者ノ家族中伯母ナルノミニシテ其他後見人トナルヘキ相當親族無之モノアリ此ノ如キ場合ニハ事情止ムヲ得サルモノニ付伯母ヲ以テ後見人トナスモ差支無之哉

指令　（二十六年五月二十九日）

家族中ノ伯母ヲ後見人ト爲スノ件ハ認許スヘカラサル義ト心得ヘシ

長崎縣伺　（二十六年六月五日）

第一條　有子ノ寡婦後夫ヲ迎ヘ配偶後子女ヲ擧ケタルトキ該子女相續權ノ義ニ付群馬縣伺ニ對シ明治十年十一月十六日内務省御指令ノ旨モ有之候處有子ノ寡婦後夫ヲ迎ヘ該後夫實子ヲ携帯シ配偶後子女ヲ擧ケサル場合ニ於テハ先夫ノ子ヲ相續者ト定ムルモ後夫ノ携帯子ヲ相續者ト定ムルモ親族ノ協議ニ任セ若シ協議不調ノトキハ他ヨリ養子ヲ迎フルモ差支無之ヤ

第二條　果シテ前條ノ通ナレハ親族ノ協議ニ依リ先夫ノ子若クハ携帶子ヲ相續者ト定メタル後ニ至リ子女ヲ擧クルモ相續ノ權利ハ依然携帶子ニ存スルモノト相心得可然ヤ

指令　（二十六年六月十三日）

第一條　伺ノ通

第二條　先夫ノ子又ハ携帶子ノ中嗣子ニ定メタルモノハ相續權ヲ有スルモノトス

福島縣照會　（二十六年五月十五日）

傍系血緣アラサル兄弟姉妹及伯叔父母姑甥姪）及傍系ノ姻族（妻ノ姉妹及血緣アラサル伯叔父ノ妻間ハ其關係止ミタル後ハ總テ婚姻苦シカラサル筋ニ可有之哉

民刑局長回答　（二十六年六月十九日）

一血緣ナキ兄弟姉妹及伯叔父姑甥姪

右ハ特別ノ事情アルモノニ限リ聽許相成然ルヘシ

二伯叔母甥姪配偶者

右ハ離縁セシ場合ノ外特別ノ事情アルモノニ限リ聽許相成然ルヘシ

三前配偶者ノ兄弟姉妹

右ハ離縁セシ場合ノ外聽許相成然ルヘシ但婦ノ再婚ニ付テハ相當ノ時日ヲ經ルヲ要ス

（民刑局長ヨリ福島縣知事ヘ通牒）（二十六年六月）

第三項前配偶者ノ兄弟姉妹ト結婚ハ離縁セシ場合ト雖モ特別ノ事情アルモノニ限リ聽許相成然ルヘキ義ニ付此段爲念及御通牒候也

東京府照會（内務省ヨリ合議）（二十六年五月十五日）

離婚ノ夫死亡ニ因リ其家絶家トナリタル場合ニ於テ之ヲ再興シタル婦ハ先婦（婦ハ夫ノ誤ナラン）ニ對スル稱呼ハ普通絶家再興ノ例ニ依リ養父子ト稱シ可然哉果シテ養父子ノ稱呼アリトスレハ右再興ノ後先夫ノ子女（再興シタル妻トノ間ニ養ヒタル子女）他ヨリ復籍スル場合ニハ其子女ニ對シテハ如何ナル稱呼ヲ生スヘキヤ

内務省庶務局長回答（二十六年）

右ハ前段御意見ノ通後段養弟妹ノ稱呼ヲ生スヘキモノト存候

東京府伺（二十六年六月十日）

後見人ニ於テ其後見スル未成年者ヲ養子ト爲スハ弊害ヲ生スヘキ恐レモ有之認許難相成義トハ被存候得共未タ類例モ無之義故何分ノ御指揮ヲ得度候

指令（二十六年六月二十一日）

親族協議出願ノ上事情止ヲ得サルモノニ限リ聽許苦シカラス

長崎縣問合（二十六年六月十九日）

妻死去ノ後該亡妻ノ姉妹ヲ娶リ不苦段内務省御指令ノ旨モ有之候處妻死去セシニ非ス事故アリ離縁セシ場合ニ於テモ該先妻ノ姉妹ト結婚ノ義ハ不苦且ツ右ハ違例結婚ノ取扱ヲ要セサルモノト相見込候得共爲念此段及御問合候

民刑局長回答（二十六年六月二十八日）

右ハ特別ノ事情アルモノニ限リ聽許相成然ルヘキ義ト思考ス

千葉縣伺（二十六年六月十六日）

失踪者ニ家名ヲ讓ル義ハ不相成旨去二十年十一月愛知縣ヘ御指令ノ趣モ有之候處茲ニ別紙戸籍寫ノ如キ失踪ノ家族一名ヲ有スル養戸主アリ該家ハ無資產ニシテ維持難相成故ヲ以テ養家離緣生家ヘ復籍ノ義養實親戚連署出願有之候處右ハ實家ニ在リテ家名ヲ繼承シタル者ト他家ヨリ來リテ養家ヲ相續シタル者トノ別ハ有之候得共其他ノ點ニ於テハ彼是異ナル所無之ニ付本願モ愛知縣ヘノ御指令ニ準シ取扱フヘキ義ニ候ヤ

内務司法兩省指令（二十六年七月八日）

伺ノ通

長野縣照會（二十六年六月二十六日）

離婚後三百日以內ノ出生兒ハ先夫ノ籍ニ入ルヘキ義ニ候處茲ニ三百日以內ノ出生兒ヲ後夫ノ長女トシ戸籍ニ登記シタルモノアリ仝ク送入籍ノ手續ノ後レタルモノニシテ實際ハ後夫ノ嫡子ニ相違ナキ趣先後夫連署據置願出ノモノ有之候處右ハ事實ニ於テ無相違ヲ認メラルヘキ場合ニ於テモ送入籍事項ハ戸籍ニ登記セサル上ハ效力ナキモノナレハ必ス先夫ノ籍ニ引戻サシムヘキ義ニシテ其儘據置クハ不相成候ヤ

内務省庶務局長
司法省民刑局長回答（二十六年七月十一日）

右ハ雙方協議屆出ノ上ハ其儘據置差支ナキ義ト思考ス

佐賀縣伺（内務省ヨリ合議）（二十六年六月二十一日）

第一條　茲ニ庶子アリ其母正婚妻トナリ入籍スルトキハ嫡出タルノ權利ヲ得ルモノニシテ市町村長ニ於テ結婚屆出ノ際直ニ長男ト記載替可然哉果シテ然ラハ結婚後男子出生ノ者ヲ長男ト記載シ庶子其儘據置キシモノアリ右ハ庶子ヲ長男ト結婚後出生者ヲ二男ト市町村長ニ於テ戸籍訂正可然哉

内務司法兩省指令（二十六年八月十八日）

第一條　伺ノ通

佐賀縣伺（内務省ヨリ合議）（二十六年六月二十一日）

第二條　茲ニ年長ノ庶子年少ノ嫡子アリ其母死亡ニ付庶子ノ母正婚ノ上妻トナリ入籍スルトキハ市町村長ニ於テ戸籍上庶子ハ長男嫡子ハ二男ト記載替スヘキヤ就テハ長男（元庶子年長者）ト雖モ二男（元嫡子年少者）廢嫡特許ヲ經サレハ相續ノ權利ハ無之モノト被存候條戸籍上其事由額書スヘキヤ

内務司法兩大臣指令（二十六年八月十八日）

第二條　前段庶子ハ其母正婚ノ日ヨリ嫡出子タルヘキモノニシテ出生ノ日ニ遡リ其權利ヲ得ルニアラサルヲ以テ年長ト雖モ前妻ノ出ノ次ニ列シ次男ト記載スヘク後段指令ニ依リ解スヘシ

香川縣伺（二十六年八月二十三日）

一人ノ幼戸主ヘ二名ノ後見人ヲ附シ候義ハ後見人間ニ於テ自然意見ヲ異ニシ不和ヲ生スル等ノ恐アリテ從テ幼者ノ不利益ヲ來スヘキ義ニシテ理論上及實際上到底後見人又ハ一人ニ限ル義ト確信致居候處明治十五年二月中愛媛縣ヨリ御省ヘ別紙伺出ノ次第モ有之候得共右ハ既ニ十數年以前ノ事ニシテ今日實施上多少疑念モ有之候折柄現ニ親族協議ノ上二名ノ後見人ヲ選定届出候者有之ニ際シ聊カ疑義ヲ生シ候

指令（二十六年九月七日）

後見人ノ件ハ一人ニ限ル義ト必得可シ

秋田縣照會（内務省ヘ合議）（二十六年七月五日）

明治十二年第八號公達ヲ以テ尋常ノ家督相續ハ出願ニ及ハサル旨相達サレ同年四月二日兵庫縣伺ヘノ指令ニハ子女ナキ戸主疾病等ノ爲メ姉妹ノ夫若クハ伯叔父母實母（寡婦）等ヲシテ相續セシメ其身退隱又ハ離緣復籍スル場合ハ總テ願濟ヲ要セスト有之依テ案スルニ凡ソ家督相續上ニ付出願セシムヘキモノハ廢嫡又ハ入夫失踪跡等ニ關スルモノニシテ明治六年第二十八號布告第一項ノ順序ヲ越エサル相續ハ縱令直系尊族竝傍系親族（尊卑族ヲ問ハス）タリトモ親族協議撰定ノ上ハ出願セ

シムルヲ要セサル義ナルヤ

果シテ前段ノ如クナルトキハ戸主死亡血統ノ者ナク又他ニ養子スヘキモノナキ場合親族協議ノ上獨身ナル遺妻或ハ正當相續權ナキ私生子ニ於テ家督相續ノ場合モ出願セシムルニ及ハサルヤ將タ相續法ノ順序ニ關係セサルモ出願セシムヘキヤ

内務省庶務局長
司法省民刑局長　回答　（二十六年九月十八日）

第一項　御意見ノ通

第二項　前段御意見ノ通

長崎縣照會　（二十六年十月十八日）

私生子ハ父ノ認知ニヨリ相當手續ヲ經テ庶子トナスヲ得ヘキ成規ニ有之候處茲ニ戸主某朝鮮國釜山ニ寄留中明治十八年家婢トノ間ニ一ノ私生子ヲ擧ケ產婦ハ間モナク歸國シ其原籍詳ナラス私生子養育中戸主モ亦明治二十年中彼地ニ於テ死亡致候然ルニ該遺兒ハ出生屆洩ニテ無籍者タルヲ發見シ今般現戸主ノ從妹トシテ入籍爲致度段親族連署ヲ以テ願出候右亡戸主實子ニ無相違旨近隣者保證書ノ外遺兒ノ父タリシモノカ生存中實子ト認メタル證據物等無之候得共生母原籍不明且親族ニ於テ亡戸主ノ實子ト認メ候上ハ願ノ通入籍聽屆可然哉若シ事實ノ如何ニ關セス父カ認知ノ手續ヲナサヽリシヲ以テ入籍不相成義ニ候ハヽ母モ亦誰タルヲ知ルヘカラサルモノトセハ日本人ノ棄兒ト朝鮮國ニ於テ出生シ父母ノ誰タルヲ知ルヲ得サルニ付棄兒ノ取扱ヲナスノ外方法ナキカ如シ然ルニ該兒ハシテ取扱ヒ致シ難キ義ト思考致候右ノ場合ニ於テハ如何處分シ可然哉

私生子出生當時入籍ノ手續ヲナサス父母結婚後ニ至リ嫡出子トシテ直ニ父家ノ戸籍ニ編入ノ義屆出ルモノ有之候處私生子取消方ニ付テハ明治六年第二十一號御布告ノ旨モ有之當初其屆出ヲナサス數年經過父母結婚ノ後ニ至リ嫡出子トシテ直ニ父家ニ入籍セシムルトキハ第二十一號御布告ノ旨趣ニ戻リ候義ト相認候因テ母ノ實家アルモノハ一旦私生子トシテ該家ニ入籍ノ手續ヲ了シ然ル後嫡出子トシテ更ニ父家ニ入籍セシメ已ニ母ノ實家斷絶ノモノハ事情不得止ニ付特別ヲ以テ嫡出子トシテ直ニ父家ニ入籍セシメ可然哉

民刑局長回答

（二十六年十月三十日）

第一項　親族ノ願出ニ因ルモ認可ヲ與フル限リニ在ラス但私生子ハ本邦人ノ遺
胤ト認メ得ヘキ事實アルモノハ棄兒ニ準シ取扱相成然ルヘシ

第二項　貴見ノ通

愛知縣照會　（二十六年十月二十六日）

管下渥美郡和地村葉山善作ナル者先代兄喜平明治十六年十二月居村地先海面ニ
漁業中暴風ノ爲メ難船シ爾來行衛不分明ニ付失踪居濟ノ處一家生計困難ニ付明
治二十二年十一月願濟兄喜平及同人子女ヲ廢シ相續セリ其後喜平妻（ゐの）ナル者
ハ都合ニ依リ明治十八年一月實家ヘ復籍シ爾後元夫ノ弟タル喜作ト私通シ既ニ
兒子三名ヲ擧ケ善作庶子ニ引受罷在且兄喜平遺子養育等ニ付善作儀前顯（ゐの）ト
結婚セサレハ一家ノ浮沈ニ關スル趣ヲ以テ結婚願出候右ハ喜平儀失踪後殆ント
十年ノ久キニ及フモ死亡ノ義判然セサルニ付テハ亡兄ノ遺妻トモ異リ結婚允許
シ難キ筋ニ候哉

民刑局長回答　（二十六年十月三十日）

聽許相成然ルヘキ義ト思考ス

東京府伺　（二十六年九月二十六日）

父ノ離緣セシ養子女ヲ其子ニ於テ父分籍ノ後更ニ養子女トナスハ差支無之哉或
ハ父分籍シタリト雖モ生存中ハ養子女トナスヲ得サル義ニ候ヤ若シ後段ノ通ニ
候ハヽ既ニ其緣組ヲ整ヘタルモノハ入籍後數年ヲ經過シタル後ナリトモ取消ヲ
命スヘキ筋ナルヤ

指令　（二十六年十月二日）

前段伺ノ通

東京府伺　（二十六年九月十九日）

幼年戸主滿十五歳以上ニ至リ家政相整候見込有之者ハ必シモ後見ヲ要セサル旨

是迄夫々ヘ御指令ノ例モ有之候處右後見ヲ要セサル幼年戸主ニ於テ其家ヲ廢シ其戸主ヲ退ク等ノ場合ハ丁年以上ノ戸主同樣其存意ニ任カシ可然ヤ

指令（二十六年十月三日）

親族連署出願ヲ要スヘキ義ト必得ヘシ

千葉縣照會（二十六年十月六日）

實養子ヲ問ハス一旦相續セシモノ疾病又ハ其他ノ事故ニヨリ父母ニ相續ヲ讓リタルモノハ退隱者ト稱シ一旦相續權無之旨明治十五年中（月日不詳）京都府伺ニ對シ內務省指令ノ趣モ有之候處明治十八年六月十九日山口縣伺ニ對スル同省指令ニ依レハ戸主疾病ノタメ退隱長男相續ノ後其父疾病平癒セサルヲ以テ父再相續ヲ爲シタル場合ニ長男ハ尙再相續權アリト有之兩指令ヲ對照スルニ長男再相續權ノ有無ハ自身ノ事故ノ有無ニヨリ決定スルモノヽ如ク相見候得共等シク退隱者ナルヲ以テ其間ニ區別アルモノトモ不被考聊疑義ヲ生シ候ニ付及御問合候

民刑局長回答（二十六年十月十一日）

一旦退隱シタル長男ハ疾病平癒若クハ事故解クルト雖モ更ニ嗣子ニ定ムルニ非サレハ當然相續權ナキモノトス但長男獨子ニシテ他ニ嗣子ナキ場合ハ此限ニ在ラサル義ト思考ス

長野縣照會（內務省ヨリ合議）（二十六年九月十八日）

玆ニ本年二月中結婚セシ未タ送入籍ノ手續ヲナサヽル內其夫六月中死亡ノ處遺婦已ニ懷妊シ居ルニ付死者妻ノ名義ヲ以テ送入籍ノ義願出候モノ有之事實相違無之被認候得共婚姻ナルモノハ戸籍ニ登記シテ始メテ公認スヘキモノニ付其登記以前ニ夫妻タリシ事實ヲ以テ送入籍事項訂正ヲ出願スルモ詮議セラレサル例ニ候得ハ右ノ如キ一方ノ死亡セシニ拘ハラス內緣當時ニ遡リ夫妻ダルヲ公認スルハ不相成筋ト被存候然ルニ去十六年五月石川縣ヨリ本件類似ノモノ處分方伺出ニ對シ同年六月十六日結婚セシ年月日ニ遡リ戸籍ヘ登記スヘキ趣指令相成候義モ有之疑義ニ渉リ候ニ付一應及御問合候

內務省庶務局長
司法省民刑局長回答（二十六年十月二十一日）

男子ノ親類協議ノ上出願スルニ於テハ聞届不苦例ニ有之候

東京府伺（二十六年十月二十八日）

一長女ヲ有スル者長女ヲ廢嫡ノ上二女ヲ嗣子ニ定ムル旨届出ノ後男子出生セリ右ノ場合ニ於テハ二女ノ相續權ヲ廢罷シタル上ニアラサレハ男子ニ相續權移ラサルモノト必得可然哉

一前項伺ノ通ニ候ハヽ其男子他ヨリ復籍シタルモノナル時モ同樣相心得可然哉

指令（二十六年十一月七日）

第一項第二項共伺ノ通

長野縣照會（内務省ヨリ合議）（二十六年十一月十六日）

男子ナク女子數人アリテ長女ヲ措キ二女ニ相續セシメントスルトキ其長女ハ廢嫡ノ手續ヲ爲スヘキハ去二十三年中鹿兒島縣伺指令ノ趣九月二日付内務省書記官御通知ノ次第モ有之候處數女子アル相續ノ義ハ順序ニ拘ハラス親族ノ協議ニ可任旨九年三月中舊置賜縣伺指令及ヒ十四年三月山形縣伺指令等ノ趣旨ニ依リ廢嫡ノ手續ヲ爲サヽリシモノ本縣下ニモ往々有之今日ヨリ之ヲ觀レハ不穩當ナルモ當時ノ成例上差支ナカリシモノニ付今更其引戻又ハ據置願等ノ手續ヲナサシムルニ及ハサルヘク思考候ニ付該御通知以後ハ其儘差措クノ意見ニ有之候得共右ハ元ト人權上ニ關スル義ニ付必ス引戻據置願ヲナサシムヘキヤ

内務省庶務局司法省民刑局長回答（二十六年十一月二十八日）

御意見ノ通引戻又ハ據置願等ノ手續ヲ爲サシムルニ及ハサル義ト思考ス

徳島縣問合（二十六年十二月九日）

妓ニ夫婦間實子ナク他ヨリ養女ヲ貰受ケタル者アリ然ルニ夫死亡ニ付相續權ハ養女ニ有之候處失踪ノ故ヲ以テ遺妻ニ相續ノ義親族ヨリ願出ルニ於テハ養女廢嫡ヲ爲サス又失踪後二十四ケ月若クハ十ケ月ヲ經過セサルモ聞届不苦義ニ候ヤ

民刑局長回答（二十六年十二月十四日）

失踪後十ケ月經過シ養女廢嫡ノ上ハ相續スヘキ義ト思考ス

人事判例集

三重縣照會（二十六年十二月二十一日）

甲家ノ長男妻携帯一男子ヲ擧ケタル後チ廢嫡ノ上乙家ヘ夫婦養子トナリ其家ヲ繼承シテ復タ長次男ヲ擧ケタリ然ルニ事故アリ爰ニ甲家ニ遣留セシ長男某ヲ乙家ニ引取リタルトキハ戸籍上之ヲ乙家ノ長男トシ乙家ニ於テ擧ケタル長次男ヲ更ニ次三男ト改メ其相續權ハ甲家ニ在テ擧ケタル男子ノ所有ニ係ヤ

民刑局長回答（二十六年十二月二十八日）

甲家ニ在テ擧ケタル長男ハ乙家（養家）ニ引取リタル場合ト雖トモ別段嗣子ニ定ムルニ非サレハ乙家ノ長次男ニ先チ當然相續權ナキモノト思考ス

第十號目次

（明治三十二年分）

民法施行前ノ養子縁組ノ効力……は頁數……一一七

民法施行法第六十八條ハ民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組ハ民法施行ノ日ヨリ以後ニアラサレハ民法ニ定メタル效力ヲ生セサルコトヲ規定シタルモノトス（判旨第四點）

（明治三十二年第八十二號明治三十二年十月五日第一民事部判決）

右當事者間ノ相續回復請求事件ニ付キ東京控訴院カ明治三十二年三月二十八日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムルノ申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

立會檢事岩野新平ハ意見ヲ陳述シタリ

判決

本件上告ハ之レヲ棄却ス

上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人之レヲ負擔ス可シ

理由

上告第一點ハ私生子ハ父之ヲ認知スレハ庶子ハ父母ノ婚姻ニ依テ嫡出子トナル是レヲ以テ私生子ト云ヘハ必ラス父未タ認知セサル者ナリ父ノ認知ナキ子ハ假令其母婚姻スルモ庶子トナルコトナク從テ母ト共ニ母ノ夫ノ籍ニ入ルモ庶子又ハ嫡出子タルノ身分ヲ取得スルノ理由ナシ而シテ私生子ノ相續上ノ順位ハ實子タル嫡出子ノ下ニ在ルハ勿論養子ニモ亦及ハサルモノナリ故ニ養子先ツ籍ニ在リ後ニ養父ノ妻私生子ヲ携帶シテ共ニ夫ノ籍ニ入ルモ私生子ハ毫モ其身分ハ變更ヲ生ス可キモノニアラサルヲ以テ養子ニ先チ母ノ夫タル者ノ家督相續權ナキモノナリ是レ新法典實施前後ヲ問ハス一般ニ認メタル法則ナリ上告人ハ本訴相續回復請求ニ於テモ第一審以來一面ニハ自己ノ身分ニ關シ明治十二年八月九日齋藤義行ノ養子トナリタル事實ヲ主張シ他ノ一面ニハ被上告人ヲ攻撃シ被上告人ハ元來私生子ニシテ其母カ齋藤義行ノ妻トナリシ爲メ明治十二年十月六日母ニ携帶セラレテ齋藤家ノ籍ニ入リタルモノナリトノ事實ヲ主張シタリ是ニ對シ被上告人モ亦終始一方ニ於テハ上告人ノ身分ニ付攻撃ヲ爲スト同時ニ他ノ一面ニ於テハ自己ノ身分ニ關シ抗辯トシテ被上告人ハ義行ト母「フデ」カ正當婚姻ヲ爲シタル嫡出子ニシテ私生子ニアラストノ事實ヲ主張シタリ是ヲ以テ上告人ノ本訴請求ヲ排斥スル判決ニハ若シ第一ノ爭ニ於テ上告人ヲ以テ義行ノ養子ニアラスト判斷シタル上ハ最早第二ノ爭ヒタル被上告人ノ身分ニ關シ調査判斷スルノ要ナシト雖トモ之レニ反シテ第一ノ爭ヒニ付キ上告人ヲ以テ義行ノ養子トナリシト判斷シタル場合ニ於テハ必ス第二ノ爭タル被上告人ノ身分ニ關スル爭點ニ對シ判斷ヲ下サヽル可ラス然ルニ原判決ハ第一ノ爭點ニ對シテハ上告人ヲ以テ明治十二年八月九日義行ノ養子トナリタルモノナリト判斷シタルニ不拘第二ノ爭點ニ對シテハ被上告人ノ身分ハ果シテ上告人ノ主張スル如ク全ク父ノ認知ナキ私生子ニシテ單ニ明治十二年十月六日母ニ從テ母ノ夫タル義行ノ爲メニ齋藤家ニ入籍スルコトヲ許サレタルニ過キサルカ果タ又被上告人ノ主張スル如ク義行ト母「フデ」ノ婚姻後明治九年八月一日出生シタル嫡出子ナルヤノ點ニ對シテ何等ノ判斷ヲ與ヘスシテ漫然控訴人ハ嫡出子タル被控訴人ニ先チ相續スルヲ得サルモノニシテ被控訴人ノナシタル家督相續ハ正當ナリトス」ト說明シタリ全ク主

要ノ爭點ニ對スル判斷ヲ遺脫シタル不法ノ裁判ナリト思料スト云フニアリ

然レトモ原判文中「控訴人ハ嫡出子タル被控訴人ニ先チ相續スルヲ得サルモノニシテ被控訴人ノ爲シタル家督相續ハ正當ナリトアリ」被控訴人入籍ト同時ニ嫡出子タル身分ヲ取得シタルモノナレハ」云々トアリ是レ卽チ第二ノ爭點ヲ判斷シタルモノトス故ニ原判決ハ爭點ヲ遺脫シタル不法アルコトナシ

上告第一點擴張ノ理由ノ前後ニ當リ「被控訴人ハ其入籍ト同時ニ嫡出子タル身分ヲ取得シタルモノナレハ云々」ト說明セラレタルヲ見レハ原院ハ上告人ノ主張スル如ク被上告人ハ元來私生子ニシテ其母ニ携帶セラレテ齋藤家ニ入籍シタルニ止マルコトヲ認メタルカ如ク而シテ其入籍ト同時ニ嫡出子シタル身分ヲ取得シタルモノヽ如ク論シタルハ之レ冒頭論述シタル如ク私生子ノ父認定ナクシテ單ニ母ニ携帶セラレテ母ノ夫ノ籍ニ入ルモ嫡出子トナスヘシトノ法則ニ違背シタル不法ヲ免レサルモノナリト云フニアリ

然レトモ民法施行以前ニ在テハ男女ノ間ニ擧ケタル私生子ハ男女結婚シ而シテ其子ヲ入籍セシメタルトキハ其入籍ハ卽チ認知ノ證ニシテ其子ト成ルモノトス

而シテ本案訴訟記錄ヲ查閱スルニ被上告人ハ義行ト「フデ」トノ間ニ擧ケタル子ナルコトハ當事者間ニ爭實ナシ然ルヲ以テ原院カ其入籍ト同時ニ嫡出子タル身分ヲ取得シタルモノナレハ云々ト判斷シタル適法ニシテ義行カ認知セサル「フデ」ノ私生子ヲ其入籍ト同時ニ嫡出子ト判斷シタルモノニアラサルコト原判文ニ於テ明カナリ故ニ此論告モ亦タ其理由ナシ

上告第二點ハ原院ニ於テ上告人ハ元來義行ノ相續ヲ目的トスル養子ナルコトヲ立證スル爲メ甲第五號トシテ右ノ如キ書面ヲ提出セリ「明治十四年六月七日原告人齋藤八十吉ハ自分儀ハ父善左衞門長男ナルカ故一旦他家相續人ニ相成リタリト雖モ善左衞門病死後其相續人ニ相立タルモ被告ハ元齋藤家ノ相續人ニナスヘキ筈ニ貰ヒ受ケタルモノナルカ故被告將來必懸宜敷不都合無之節ハ自分ノ跡相續ニ致ス可ク候右ノ通リ相違無之候明治十四年六月七日齋藤八十吉印東京地方裁判所判事今村信行殿」右證書ハ義行(八十吉ノ改名)カ上告人ニ對シ地券書換請求訴訟ヲ提起シタル時東京控訴院ニ於テ書留メニ於ケル本人ノ裁判上ノ自白ヲ調書中ニ書留メテ署名捺印セシメタルモノニシテ被上告人モ亦其成立ヲ承認シタリ而シテ其文旨義行ノ養子タル上告人ハ義行ノ家督相續ヲ目的トスル養子ナルコト一點ノ疑

外國婚姻令集

ナシ然ルニ原判決ハ甲第五號證ヲ曲解シテ甲第五號證ハ單ニ義行カ控訴人ニ將來不都合ナキ時ハ自己ノ跡相續ヲ爲サシメタルコト陳述シタルノ證タルニ止マルモノト事實ヲ確定シタリ是養子治郎助ハ家督相續人ニ貰ヒ受ケタルモノナレハ不都合ナキ限リハ必ス義行ノ跡家督相續ヲ致サス可シトノ旨意ナル文書ヲ以テ養子治郎助ハ將來不都合ナキ時ハ或ハ自己ノ跡相續ニスルコトアリトノ旨意ニ解スルモノニシテ是レ尚ホ借用證書ヲ解シテ預リ證ト確定スルト一般ニシテ此クノ如キハ法期ニ違背シ不當ニ事實ヲ確定シタル不法ノ裁判タルヲ免カレス

ト云フニアリ

然レトモ甲第五號證中被告將來心懸宜敷不都合無之節ハ自分相續可致候トアル文詞ノ如何ハ事實問題ニ屬スル而シテ原院ハ之レヲ未定ノ意味ニ解釋シタルモノナリ要スルニ此點ノ論旨ハ證書ノ解釋ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ適法上告ノ理由ト爲ラス

上告第三點ハ新民法實施前ニ於ケル養子トナル當時特別ニ相續人ト爲サヽルト雖モ明白ナルモノハ外總テ嫡出子タル身分ヲ取得セリ故ニ養父ノ相續ヲ目的トスル

第十號目次

佛國民法人事編

第六卷　離婚

第二章

第一節　離婚ノ法式……五七

第三章　離婚ノ效力……五八

ナルトキハ離婚ノ登記ハ其婚姻證書ノ欄外ニ記載スヘシ

第二百五十二條　前條ノ登記ハ離婚ヲ許サレタル一方ノ請求ニ因リ爲サルヽモノナルカ故ニ之ヲ登記スル爲メ其判決ヲ管轄身分取扱吏ニ判決確定ノ日ヨリ二ケ月內ニ通知スヘシ此通知書ニハ民事訴訟法第五百四十八條ニ規定シタル證明ヲ添付スヘシ但其判決カ控訴ノ判決ナルトキハ上告ナキ旨ノ證明書ヲ添付スヘシ

此登記ハ祭日ヲ除キ五日目ニ身分取扱吏之レヲ登記スヘシ身分取扱吏カ之ヲ怠リタルトキハ民法第五十條ノ規定ニ依リ處分ス

前項ノ通知ハ離婚ヲ許サレタル一方カ初ノ一ケ月內ニ通知ヲ爲サヽリシトキハ相手方ハ均シク其翌月中ニ身分取扱吏ニ其判決ヲ通知スル權利ヲ有ス

又前項ノ二ケ月ノ期間內ニ當事者何レモ登記ノ請求ヲ爲サヽルトキハ離婚ハ無效ト看做ス

登記セラレタル離婚ノ判決ハ當事者間ニ在リテハ離婚ノ請求ノ日ニ遡ホリテ效力ヲ有ス

第二百五十三條―第二百九十四條　廢止

第三章　離婚ノ效力

第二百九十五條　一度離婚シタル夫婦ハ其一方カ更ニ他人ト結婚シテ離婚シタルモノナルトキハ之レト再婚スルコトヲ得ス

離婚シタル夫婦カ再婚スルニハ新ニ婚姻ノ儀式ヲ必要トス

再婚ノ夫婦ハ初婚ノ場合ニ採用セシモノト異ナル夫婦財產制ヲ採用スルコトヲ得ス

離婚シタル夫婦カ再婚シタル場合ニハ如何ナル理由ヲ以テスルモ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス但再婚後夫婦ノ一方カ體刑及加辱刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第二百九十六條　離婚シタル婦ハ離婚ノ確定後十ケ月ノ後ニアラサレハ婚姻スルコトヲ得ス（第二百九十七條　廢止）

第二百九十八條　姦通ニ依ル裁判上ノ離婚ヲ許可シタル場合ニ於テハ姦夫又ハ姦婦ハ相姦者ト結婚スルコトヲ得ス

戸籍法令大全

第十號目次

第一條乃至第四條ニ關係アル法令

一　市制……六三
二　町村制……六三

ス

前項ノ區長ハ市參事會ノ監督ヲ受ケ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區收入役ハ區ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

區收入役ハ市收入役ノ指揮命令ヲ受ケ若クハ委任ニ依リ區內ニ關スル市收入役ノ事務ヲ管掌ス

第七十三條　委員ハ(第六十一條)市參事會ノ監督ニ屬シ市行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス助役ヲ以テ委員長ト爲ス場合ニ

第七十四條　委員(第六十五條)ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス助役ヲ以テ委員長ト爲ス場合ニ

加ハリ其議長タルノ權ヲ有ス常設委員ノ職務權限ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十四條　市長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一　司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス

二　「浦役場ノ事務」

三　國ノ行政並府縣ノ行政ニシテ市ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ市參事會員ノ一名ニ分掌セシムルコトヲ得

東京市、京都市、大阪市ノ市長ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ本條ノ事務ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ揭載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ市ノ負擔トス

東京市、京都市、大阪市ノ市長ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ本條ノ事務ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得(三十一年法律

於テモ町村長ハ臨時委員會ニ出席シテ其委員長ト爲リ並其議決ニ加ハルノ權ヲ有ス

常設委員ノ職務權限ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十九條　町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一　司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス

二　「浦役場ノ事務」

第七十五條　名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

實費辨償額及報酬額ハ市會之ヲ議決ス

第七十六條　市長助役其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

市會ノ議決ヲ以テ市長ノ給料額ヲ定ムルトキハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス若シ之ヲ許可ス可カラス

第七十五條　名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

實費辨償額、報酬額及書記料ノ額（第六十三條第一項）ハ町村會之ヲ議決ス

第七十六條　有給町村長有給助役其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

町村會ノ議決ヲ以テ町村長及助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス郡長ニ於テ之ヲ許

◉改正刑法ニ付キ新著書紹介ノ廣告

新刑法實用

（四版）

司法大臣　松田正久閣下題字
司法次官　河村譲三郎閣下題辭
大審院部長　富谷鉎太郎閣下序
內務省警保局長　古賀廉造閣下序
司法省民刑局長　平沼騏一郎閣下序
司法省參事官　谷田三郎先生校閲
日本法令審査會主事　深尾戸藏著

菊版四百八頁
總クロース綴上製

定價金壹圓五拾錢
送費金拾錢三部以上送費不要

本書ハ逐條講義トシ各頁ヲ二段ニ區別シ上欄ニ舊刑法ヲ掲ケ、中欄ニ新刑法、下欄ニ改正ノ理由ト說明トヲ詳述ス

本書ハ未ダ江湖ニ顯ハレザル材料ニ依リテ編纂著述シタルモノナリ

申込所　東京市神田區今川小路三丁目六番地　明倫館

明治三十九年十二月十九日第三種郵便物認可　（毎月一回十五日發行）

○教育家諸彦へ緊急廣告○

文部大臣秘書官　文部省參事官　法學士　赤司鷹一郎先生校閲

日本法令審査會主事　宍戸深藏　著

通俗教育　刑法上の修身訓

本書は言文一致體を用ひ刑法に如何なる修身觀念を包含し居るやを一見明白ならしむ教育に從事せらるゝ方々は勿論國民の指導の重任を負はるゝ市町村長諸彦には一日も缺くべからざる寶書なり

再版總クロース上製　百五十頁　定價金七拾錢　三部以上金五拾錢　送費壹部金八錢

申込所　東京市神田區今川小路三丁目六番地　明倫館

明治四十年九月十二日印刷　明治四十年九月十五日發行　編纂兼發行者　神田區今川小路三丁目六番地　正木直彦　印刷者　京橋區宗十郎町十五番地　中島丑之助　發行所　明治教育會

川教會三八二號

明治三十九年十二月十九日第三種郵便物認可
明治四十年十月十五日發行（毎月一回十五日）

石籍叢書

第十一號

石籍學會

○戸籍叢書内容一覧

戸籍法實用

ハ戸籍、親族、相續ニ關スル通牒其他ノ實例新例等ヲ根據トシ常ニ前月マデノ新例ヲ類集シテ戸籍事務取扱方ヲ詳述シタルモノナリ

舊慣例集

ハ民法施行前ノ舊慣例ヲ施行當時ヨリ遡ホリテ編年的ニ類集シタルモノナリ

○明治四十年春季ノ全國地方裁判所長會同ノ際上京員諸君ノ御希望ニ因リ自今舊慣例集ノ頁數ヲ增加スルコトトセリ

人事判例集

ハ民法施行後ノ大審院判決ヲ編年的ニ類集シタルモノナリ

外國婚姻令集

ハ英米獨佛其他外國ノ法令中婚姻ニ關スルモノヲ摘譯シテ類集シタルモノナリ

戸籍法令大全

ハ戸籍法ニ關係アル諸法令ヲ戸籍法ノ規定順序ニ類集編纂シタルモノナリ

戸籍法實用

○戸籍法實用ハ著者ノ私見ニアラス正確ナル實例ニ依リテ編纂著述シタルモノナルヲ以テ各條ノ下說明少ナキ箇所アルハ卽チ未タ其筋ニ於テ問題ト爲リタルコトナキヲ示ス故ニ讀者ハ問題少ナキ箇條ニ就キ十分研究ノ上新ナル實驗ヲ誘發セラレンコトヲ望ム.

○戸籍法實用ハ新例ヲ生スル毎ニ取リ集メ修正スルノ必要アルヘキヲ豫見シタルカ故ニ條毎ニ別葉トセリ（然ラサレハ一ケ條中修正ヲ加フル必要アル爲メ他ノ頁ヲモ改版スルニ至ルヘケレハナリ）

第十一號目次

	頁數
第四十二條	一七一
第四十三條	一七五
第四十四條	一七七
第四十五條	一八五

届出人カ本籍ヲ有セサルトキハ其届出ニ關シテハ所在地ヲ以テ本籍地ト看做ス

本條ハ届出ヲ爲スヘキ地ヲ規定シタルモノナリ

○第一項ニ就テ

一本條ハ戸籍吏ノ管轄ニ關スル通則ナルヲ以テ第六十九條、第九十條、第百四條及ヒ第百二十七條ノ如ク特ニ管轄戸籍吏ヲ指定シタル場合ノ外ハ本籍地又ハ所

在地ノ戸籍吏ニ届出ヲ爲スコトヲ得

戸籍法未施行地タル臺灣ヘ出稼中出生死亡其他身分登記ニ關スル事件發生シタルトキ其臺灣ニ在籍ト否トヲ問ハス該義務者ハ其所在地管轄辨務署長ヘ届出又ハ申請ヲ爲スコトヲ得

本條ノ本籍地トハ本人ノ原籍地ヲ差シタルモノナリ

他府縣ヨリ分家ヲナサントスルモノハ分家地戸籍吏ニ其届出ヲナシタルニ付キ戸籍吏ハ之ヲ受理シ其副本ヲ本籍地戸籍吏ニ送付スルト同時ニ身分登記其他本件ニ關スル一切ノ手續ヲ了シタル後ニ於テ本籍地戸籍吏ヨリ届書中相違ノ廉アル旨ヲ以テ返戻シタル場合ハ當然戸籍法第百六十七條ニ依リ身分登記變更ノ申請ヲナスヘキモノタルハ言ヲ俟タス然レトモ右申請ハ一定ノ期間ナキニ依リ届出人ニ於テ無頓着茫苒經過スルトキハ双方ニ本籍ヲ有スルニ至ル此間ニ於テ身分ニ關スル届出ヲナス場合ハ分家地ヲ以テ本籍地ト爲スヘシ

戸籍法中戸籍簿ニ關スル規定ハ日本ニ本籍ヲ有セサル者ニハ之ヲ適用スヘカラスト雖モ身分登記ニ關スル規定ハ之ヲ外國人ニモ適用セサルヲ得ス隨テ外國人ニ於テモ出生死亡ニ付テハ戸籍法ノ規定ニ從ヒ其届出ヲ爲スコトヲ要スヘク婚姻ノ如キハ其届出ヲ強制スヘキ筋合ノモノニ非サルニ付キ外國人カ其國法ニ從ヒ他ノ手續ニ依リ有効ニ婚姻ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テハ戸籍吏ニ其届出ヲ爲スコトヲ要セス

○第二項ニ就テ

一第二十一條ハ身分登記ニ關スル規定ニシテ届出ニ關スル規定ニ非ス本條第二項ニ届出人カ本籍ヲ有セサルトキハ其届出ニ關シテハ所在地ヲ以テ本籍地ト看做ストアルニ因リ無籍者ハ其所在地ヲ以テ本籍地ト看做スニ過キサルヲ以テ本籍地外ニ於テ届出ヲ爲スコトヲ得ル場合即チ出生地ノ戸籍吏ニ出生ノ届出ヲ爲ス如キ場合ニ於テハ無籍者ト雖モ出生地ノ戸籍吏ニ其届出ヲ爲スコトヲ得但戸籍法ニ於テハ被登記者ノ本籍分明ナラサル場合ナルコトヲ認ムレトモ届出人ノ本籍分明ナラサル場合アルコトヲ認メサルナリ

二外國人ノ身分登記ハ非本籍人身分登記簿ニ之ヲナスヘキモ其届出ハ本條第二

一項ニヨルヘシ

第四十三條　届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

但正當ノ事由アルトキハ届出人ハ戸籍吏ニ其理由ヲ陳述シ口頭ニテ届出ヲ爲スコトヲ得

本條ハ届出ノ書面ナルヲ原則トシ例外トシテ口頭ノ届出ヲモ許スコトヲ規定シタルモノナリ

一届出人カ本籍地外ニ在リテ本籍地ニ身分及戸籍ニ關スル届出ヲ爲サント欲スル場合ニ於テハ届書ヲ郵便ニテ本籍地戸籍吏ニ直チニ發送スルモ可ナリ

二戸籍法ノ規定ニ依リ身分又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ爲ス場合ニ於テ往々複寫版若クハ謄寫版ヲ以テ謄寫シタル書面ヲ用フル者アルモ右ハ保存上不都合勘ナカラサルニ付キ如斯届書ヲ差出シタルトキハ届出人ヘ相當ノ注意ヲ爲シ之ヲ受理セサル樣取計フヘキモノナリ

謄寫版等ニテ謄寫シタルモノ並ニ炭酸紙ニテ複寫シタルモノモ亦同シ

三届書カ二枚以上アルトキハ契印ヲ爲スヘシ

四本條但書中正當ノ事由トハ無筆負傷其他ノ事由ニ因リ書面ヲ認ムルコト能ハサルヲ云フ

第四十四條　届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一　届出事件

二　届出ノ年月日

三　届出人ノ族稱、職業、出生ノ年月日及ヒ本籍地

本條ハ届書ニ記載スヘキ事項ト其記載ノ方法トヲ示スニ止リ其用紙體載文體等ニ付テハ別ニ一定シアルニアラス故ニ戸籍法規定ノ條件ヲ具備シ居ル以上ハ用紙體載等雜形ト相違スルモ戸籍吏ニ於テ之カ受理ヲ拒ムヘキモノニ非サルヤ勿論ナリ

第一　書式

一戸籍法ニ於テハ届書ニ記載スヘキ事項ト其記載ノ方法トヲ示スニ止リ其用紙體載文體等ニ付テハ別ニ一定シアルニアラス故ニ戸籍法規定ノ條件ヲ具備シ居ル以上ハ用紙體載等雜形ト相違スルモ戸籍吏ニ於テ之カ受理ヲ拒ムヘキモノニ非サルヤ勿論ナリ

二身分ニ關スル届書記載方ニ付テハ一定ノ書式ニ據ラシムヘキ成規ナキヲ以テ苟モ戸籍法ノ規定ニ從ヒ各條件ヲ具備セル届書ハ戸籍吏ニ於テ之ヲ受理セサ

ルヘカラサル、ハ勿論ナリ例之ハ婚姻届出ニ際シ當事者卽チ夫又ハ妻ト其各父母トノ本籍地及氏ハ普通同一ナルヲ以テ其同一ナル場合ハ當事者ノ本籍地及氏ヲ記載セリ其各父母ノ本籍地及氏ヲ省略スルカ如キ又戸籍法第百二條第一號ニ依リ當事者ノ本籍地及出生ノ年月日ヲ記載シタルトキハ同法第四十四條第三號ニ依ル届出人ノ出生年月日及本籍地ノ記載ヲ省略スルカ如キハ孰レモ差支ナシ

第二　署名、捺印

一　届書ニハ届出人署名捺印シ且戸籍吏ノ氏名ヲ記載セシムルヲ相當トス

二　書面届出ニ付キ自署スヘキハ其届書全面ニ對スルモノニ非ス其捺印ヲ要スヘキ氏名ノミニ限ル

三　戸籍法中届出人其他ノ者ノ名ヲ代署セシメタル場合ニ於テハ捺印ヲ爲スト雖モ其事由ヲ附記スヘキモノトス

婚姻離婚、縁組離縁ノ届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲ス場合ニ於テハ第二百十八條ノ代署ノ規定ハ之ヲ適用スヘカラスト雖モ第四十四條及ヒ要スレトモ口頭ヲ以テ其届出ヲ爲ス場合ニ於テ届出人カ署名捺印スルコト能ハサルトキハ第二百十八條ニ依ル届出ニ付テハ書面ヲ以テ之ヲ爲スト雖トモ該條ノ規定ニ依ルコトヲ得其他ノ届出ニ付テハ書面ヲ以テ之民法第七百七十五條ノ規定ニ依リ署名シタル書面ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ第二百十八條ノ代署ノ規定ハ之ヲ適用スヘカラスト雖モ第四十四條及ヒ捺印ニ關スル第二百十八條ノ規定ハ之ヲ適用スヘキモノトス

第三　氏名

一　戸主又ハ夫ニ付キ其氏ノ記載アル届書ニハ家族タル女又ハ妻ノ氏ヲ記載セシムルニ及ハス

二　外國人カ身分ニ關スル届出ヲ爲シタル場合ニ於テ特ニ外國人ノ利益ヲ保護スル爲メ其氏名ヲ届書ニ記載スルニ方リ片假名ノ外羅甸文字ヲ記載セシムルコトトナリ居ルモ外國人カ羅甸文字ヲ記載セサル場合ニ於テハ其者ハ利益ヲ拋棄シタルモノト看做シ其儘届書ヲ受理シ身分登記ニハ片假名ノミニテ氏名ヲ記載スヘシ但清韓兩國人ノ身分ニ關スル届書ノ取扱方ハ之ニ倣フヘキモノニ非サルヲ以テ漢字ヲ以テ届書ニ氏名ヲ記載シタル場合ニ於テハ身分登記ニモ

其漢字ヲ記載スヘキモノトス

三　女子ノ名

(一)女子ノ名ヲ記載スルニハ其者ノ現在ノ本籍地ノ戸籍ニ記載シアル文字ヲ用フヘシ但實家ノ戸籍ト符合セサルモ何等ノ手續ヲ爲スニ及ハス

(二)女子ノ名戸籍面ニテ記載シアル場合ニ當事者ハ平假名ヲ用ヒ届出タルトキハ當事者ヲシテ戸籍面ニ基キ片假名文字ニ訂正セシムヘシ

戸籍ニ片假名ヲ以テ記載シアルトキハ届書モ片假名ニ改メシムルヲ相當トス假名文字ニ多少詳略ノ別アルニ過キサルモノハ必スシモ改メシムルニ及ハサルヘシ

(三)戸籍ニ平假名ニテ記載シアル名ハ届書ニ片假名ヲ用ユルコトヲ得ス但單ニ字樣ヲ變シタルニ止マルモノ假令ハさくヲさくト作リタルカ如キハ差支ナシ

戸籍面ニ平假名ニテ(うめ)ト記載シアル女子ノ届書ニ(う免)ト記載シ又ハ(ウメ)(宇米)(鵜女)等片假名又ハ漢字ヲ用ヒタルモノハ之ヲ受理セサルヲ相當トス但(いく)ヲ(幾)ト(まつ)ヲ(末)ト記載シタルカ如キ字體ヲ變シタルモ同字ヲ用ヒタルモノハ之ヲ受理スヘシ

女子ノ名戸籍ニてゐトアルヲていまたはいくヲゐくト記載スルカ如キハ等シク假名字體ヲ異樣ニ變シタルニ過キス文字ノ相違ト認ムルヲ得サルニ付人違ノ虞ナキ限ハ受理シテ可ナリ

第四　第二號ニ就テ戸籍カ滅失シタル場合ニ於テ更ニ差出シタル届書ニハ前届出ノ年月日ヲ記載セシメ且明治何年司法省告示第何號ニ依リ明治何年何月何日再届出ノ旨ヲ記載セシムヘシ

第五　第三號ニ就テ

一　第七十四條ノ規定ニ依ル届出義務者カ其届書ニ所屬官署若クハ公設所及ヒ其官職ヲ表示スルトキニモ本條第三號ニ依リ族稱、職業、出生ノ年月日及ヒ本籍地ヲ記載スヘシ

二　届書ニ記載スヘキ家族ノ職業ハ家族カ戸主ト職業ヲ同フスル場合ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得ヘシ又家族カ戸主ト職業ヲ異ニスルカ又ハ無職業ナルトキ

キハ幼者ト雖トモ之ヲ記載セサルヘカラス

三 改暦以前ノ出生届ノ生年月日ニシテ戸籍簿ニ閏朔日晦日等ノ文字ヲ記載シアルトキハ戸籍法ニ依リ其者カ届出ヲ爲シ又ハ戸籍吏カ其者ノ身分登記及戸籍ノ記載ヲ爲スニハ戸籍簿ニ記載ノ儘ノ文字ヲ用ユヘシ

四 届書ノ本籍地ハ届出人ノ本籍地カ其戸籍役場所在地ト同府縣ナル場合ハ郡名以下ニテ差支ナキモ然ラサル場合ハ縣郡市町村番地ヲ記スヘシ

五 身分ニ關スル届書ニ本籍等ヲ記載スル場合ニ於テ其土地ニ大字ノ名稱アルトキハ之ヲ記載スヘシ

六 戸籍法施行後家督相續分家、一家創立其他ノ事由ニ因リ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニ於テハ戸籍法第百七十一條及第二百二十一條第二項ニ依リ土地ノ番號ヲ附スヘシト雖モ從前郡番號屋敷番號戸番號ヲ附シアルモノハ右編製マテハ從前ノ番號ヲ用ヒ差支ナキニ付キ届書ニハ戸籍面記載ノ番號ヲ用フヘシ

七 戸籍法施行前ニ編製シタル戸籍ニ同居ト記載シアル者カ同法施行後戸籍又ハ身分ニ關スル届出ヲ爲ス場合ニ於テハ同居ノ文字ヲ記載スルニ及ハス

第四十五條　届出人ト届出事件ノ本人ト異ナルトキハ届書ニ其間ノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ氏名及ヒ届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

本條ハ届出人ト届出事件本人トノ續柄ヲ記載スヘク又家族ニ付テハ戸主ノ氏名及ヒ戸主トノ續柄ヲ記載スヘキ旨ヲ規定シタルモノナリ

舊慣例集

第十一號目次

（明治二十五年分）

頁數

一　緣組外ニ養兄弟姉妹ノ貰受……二〇一
二　血緣ナキ養兄弟姉妹、叔姪間ノ婚姻……二〇一
三　實子ナキ者ノ養女ノ他家入籍ニ付キ嫡嫡ノ要否……二〇二
四　女子ノ他家ノ者ノ後見人ト爲ル資格……二〇二
五　養子一人ヲ有スル戸主死亡後養子ノ實家復籍……二〇二
六　婿養子離緣ノ際其妻携帶實家復籍ノ件……二〇三
七　老衰ノ戸主ニ後見人ヲ置ク件……二〇四
八　養子離緣ノ際嫡孫タル其子携帶復籍ノ件……二〇五
九　戸主ノ二男ト相續權ヲ失ヒタル長男ノ子女トノ間ノ相續順位……二〇五
十　失踪戸主ノ長子又ハ長子ナキ場合戸主ノ兄弟姉姪一人ナルトキ其者ノ他家緣組……二〇七
十一　後見人ヲ親族會議ヲ以テ免黜シタルニ後見人カ之ヲ肯ンセサル場合ノ取扱方……二〇九
十二　私生子ノ父母婚姻後私生子ノ出生届出ヲ爲ササル內死亡シタルトキ私生子ノ入籍方……二一〇
十三　長女ノ配偶者トノ戸籍ノ續柄ノ記載方並ニ其間ノ相續順位……二一一
十四　夫婦養子ト養親トノ續柄其携帶子ノ續柄及ヒ屆書ノ戸籍記載例……二一二
十五　前項携帶子ト其父母ノ緣組後ニ生レタル子トノ間ノ相續順位……二一二
十六　戸主ニ非サルモノノ爲ス聟養子緣組……二一三
十七　幼者ノ廢戸主及其跡相續人ニ家族ヲ措キ他家ノ者選定方……二一四
十八　成年戸主健忘症ニ罹リタル場合後見人ノ選定……二一五
十九　戸主ノ養子ト戸主ノ女トノ間ノ戸內婚姻……二一五
二十　戸主ノ長男死亡シタル場合他家ヨリ復歸シタル二男ト三男トノ間ノ相續順位、戸主ノ長女聟養子カ相續權ヲ失ヒタル場合養子ノ子女ト長女トノ間ノ相續順位……二一六
二十一　兄弟姉妹間ノ養子緣組……二一七
二十二　實家斷絕シタル祖母又ハ母カ婚家ヨリ更ニ他家婚姻方……二一八
二十三　生來暗愚ナル相續人ノ廢嫡……二一八
二十四　養嗣子ノ廢嫡ニ付キ其實家トノ協議ノ要否……二一九
二十五　失踪逃亡中ノ養子若クハ妻ノ離緣又ハ離婚ニ關スル其失踪期間……二一〇
前項戸主失踪中其養子又ハ妻ノ離別……二一〇

島根縣問合（二十四年十二月二十二日）

養兄弟姉妹（姉妹ノ夫トシ又ハ兄弟ノ妻トスルモノニアラス）ノ稱呼ヲ以テ貰受クルハ不苦義ニ候ヤ果シテ然ラハ爰ニ戸主ノ父母トハ養父母養子女ノ緣義ヲ生スヘキヤ

總務局長回答（二十五年一月七日）

第一項　養兄弟姉妹ノ稱呼ヲ以テ貰受クルハ相成ラス

島根縣問合（二十四年十二月二十二日）

血緣ナキ養兄弟姉妹又ハ叔姪ハ籍ノ內外ヲ問ハス結婚不苦ヤ

總務局長回答（二十五年一月七日）

第二項　血緣ナキモノト雖モ結婚相成ラス但事情止ムヲ得サルモノハ事實ヲ具シテ伺出相成然ルヘシ

島根縣問合（二十四年十二月二十二日）

實子孫ナキ者ノ養女ハ實女ト同シク繼嗣權ヲ有スルヤ果シテ然ラハ之ヲ他家ノ婦ニ送籍スル等ノ場合ニ於テハ廢嫡ノ手續ヲ履行セサルヘカラサルヤ

總務局長回答（二十五年一月七日）

第三項　御見込ノ通

香川縣電信伺（二十五年一月七日）

女戸主ノ外婦女ニテ他家ノ後見人トナルコトヲ得サルヤ

指令（二十五年一月八日）

母祖母ニ限リ親族協議ノ上他家ノ後見人トナルコトヲ得ヘシ

德島縣問合（二十四年十二月二十七日）

平民ノ戸主死亡シ遺族ハ養子一人ノミアルモ幼年又ハ赤貧ニシテ一家維持難相成モノト雖モ養子一旦相續ノ上ナラテハ非戸主ニシテ一家ヲ廢シ實家ヘ復籍致候義ハ不相成義ト存候得共其當時親族ヨリ追テ相應ノ者ヲ選定シ相續可爲致旨ニテ其養子ハ實家ヘ復籍セシモノアルトキハ戸主死亡ノ日ヨリ起算シ六ケ月ヲ經過スルモ相續人ヲ定メサルニ於テハ絕家ノ處分ヲ爲スヘキヤ

總務局長回答（二十五年一月十四日）

戸主死亡シ養子一人アル場合ニ於テハ養子ハ當然跡相續ヲ爲スヘキモノニ付一旦相續シ廢家ノ上實家ヘ復籍スルハ格別跡相續人ヲ定メス直ニ復籍スルハ相成ラサル義ト思考ス

大阪府伺（二十四年十二月二十三日）

明治十二年中茨城縣伺內務省御指令ニ據レハ聟養子離緣ノ際妻（他女）携帶實家ヘ復歸ヲ請求スル場合ハ夫婦ノ存意ニ任セ養父之ヲ拒絕スヘキモノニアラス故ニ當府ニ於テモ其精神ニ基キ右等ノ場合ニ在テハ養實家等協議ノ上ハ直ニ携帶送籍差支無之旨部下ヘ指令致置候處今般他地方村役場ニ於テ他女ノ妻ハ一旦生家ヘ復籍セルニ非サレハ入籍難取扱旨ヲ以テ返籍致候向モ有之趣ニ候然ルニ之ヲ生家ヘ復籍スルハ取モ直サス夫妻ノ名分ヲ失ヒ其相受ノ良緣ヲ絕タシムルモノ

ニシテ其處置穩當ナラスト存候又民法人事編中離緣ヲ原因トシテ離婚ヲ請求シ又離婚ヲ原因トシテ離緣ヲ請求スルコトヲ得云々トアルニ參考スルモ其離緣ノ爲メニ直ニ離婚ノ效力ヲ生スヘキモノニアラサルヘシ因テ他女家女ニ拘ハラス其良緣アルモノハ凡テ養家ヨリ夫ノ實家ニ直チニ送籍差支ナキ義ト心得可然ヤ

內務司法兩省指令（二十五年一月二十日）

伺ノ通

愛知縣照會（二十五年一月二十日）

癲癲又ハ白痴ノ無能力ハ後見人ヲ置クモ妨ケナキ義ト存候處玆ニ單身戶主七十五年餘ト相成老衰且精神痴鈍症ニ罹リ思考力幷判斷力全ク缺如セシ趣ヲ以テ醫師診斷書添附親族熟議後見人ヲ選定屆出ツルモノアリ右ハ前顯無能力者ニ準シ該屆受理セシムルモ差支ノ筋無之候ヤ

總務局長回答（二十五年一月二十五日）

御見解ノ通差支ナキ義ト思考ス

滋賀縣伺（二十五年一月十四日）

第一條　養子戶主トナラサル前養家ニテ擧ケタル男子ヲ携帶離緣復歸スルハ双方ノ協議ニ任セ苦シカラサル旨明治二十年六月福島縣伺ニ對シ貴省御指令有之候處右ハ養子戶主トナラサル以前離緣復歸スルモ養家ニ於テ擧ケタル男子ハ卽チ養子戶主ノ嫡孫タルヲ以テ養子ヲ離緣セシ上ハ隨テ其嫡孫カ相續者タルヘキハ當然ノ順序ト存候依テ前記御指令中双方ノ協議ニ任セ云々トアルモ本人及養實家等ノ協議ニ一任スルハ難相成モノト思考致候ニ付右協議ニ任スト云々ハ其協議ノ整ヒタルモノハ其望ミニ任セラルルノ意ト解釋シ嫡孫ヲ携帶復歸スルハ矢張リ儀式上出願許可ヲ經ヘキモノト相心得可然ヤ

指令（二十五年一月二十九日）

第一條　嫡孫嗣子ナルトキハ伺ノ通

滋賀縣伺（二十五年一月十四日）